

自己評価報告書

2023年3月現在

東放学園映画専門学校

目 次

1	学校の理念、教育目標	1
2	本年度の重点目標と達成計画	2
3	評価項目別取組状況	3
	基準 1 教育理念・目的・育成人材像	4
	基準 2 学校運営	8
	基準 3 教育活動	16
	基準 4 学修成果	28
	基準 5 学生支援	34
	基準 6 教育環境	50
	基準 7 学生の募集と受入れ	57
	基準 8 財務	65
	基準 9 法令等の遵守	71
	基準 10 社会貢献・地域貢献	77
4	2022年度重点目標達成についての自己評価	82

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>■学園理念■</p> <p>〈基本理念〉</p> <p>東放学園は「己と和と成長」を基本として、未来に向かって豊かな価値を創造し、メディアとエンターテインメントの発展に貢献できる人の育成を目指します。</p> <p>〈使 命〉</p> <p>①社会の一員として寄与できる人を育てます。</p> <p>東放学園は、健全な学校事業活動を通じて、自己を磨き、社会の一員として寄与できる人の育成に努めます。</p> <p>②豊かな価値を創造できる人を育てます。</p> <p>東放学園は、メディアとエンターテインメントの分野で、人との関わりから豊かな価値を創造する人の育成に努めます。</p> <p>③組織とともに成長できる人を育てます。</p> <p>東放学園は、自己と組織との協調の実現に努め、共に成長し続ける人の育成に努めます。</p> <p>〈行動指針〉</p> <p>①私たちは、大きな視野に立って、東放学園に活かせる知識・技能・技術の向上に努めます。</p> <p>②私たちは、誠意・熱意・創意に基づく活動を通じて、良好な人間関係を築き、自己の能力と人との和を活かして、働きがいのある東放学園の風土を造ります。</p> <p>③私たちは、先見性を持ち、効果的に創造することにより、東放学園の価値を高め、継続的な発展を図ります。</p>	<p>■教育方針■</p> <p>私たち東放学園の教職員は、理念体系に基づいた以下の教育方針に則り、人の育成に努めます。</p> <p>実践教育 ～実力は現場を体験することで身につく～</p> <p>放送・映画・音楽・芸能の業界が求める人材は時代とともに変化しつづけています。TBS（東京放送教育事業本部）が学校を創設した当時から、業界と太いパイプで結ばれ、そのニーズをカリキュラムに反映させてきました。このような「現場主義」の環境だからこそ、業界で多くの卒業生が活躍しているのです。</p> <p>人間教育 ～信頼はあいさつから始まる～</p> <p>スタッフやキャストが集まって作品をつくる仕事では、チームワークが必要不可欠です。チームワークや信頼関係の基本であるあいさつをはじめとするコミュニケーションを重んじているからこそ、社会人として必要な豊かな人間性や社会性を身につけることができます。</p> <p>自立教育 ～表現は個の確立から始まる～</p> <p>クリエイティブな仕事に携わっていくためには、自分自身で道を切り開き、表現していくことが大切です。同じ目標を持った仲間が集う中で、知識・技術・技能を高めるとともに、自己を確立しているからこそ、自由な発想と各自の個性を伸ばすことができるのです。</p>

2 本年度の重点目標と達成計画

2022 年度重点目標	達成計画・取組方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学校デザインの見直し ・中途退学防止策の強化 ・就職率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校内施設の利用状況、通常業務や行事などについて、スケジュールや必要性などを精査し、問題点を抽出し改善していく（3年間）。 ・学科担当者や講師の定年を視野に、現行カリキュラムの見直しを行う。教務教育部長を中心として、専門家の意見も取り入れながら学科ごとに精査する。 ・校内施設の利用状況を検証し、使用方法やレイアウトの見直しを行う。各部長を中心に、機材や備品についても見直しを行い、計画的に更新を進める。 ・学校行事について、時期や内容、参加率などを精査する。行事担当者を中心に、学生の気質も鑑みスケジュールや内容の見直しを行う。 ・各担当で通常業務を見直し、必要な改善を行う。 ・前年度の中途退学者リストを作成し、原因を把握すると共に対策を検討する。 ・出席不良の学生に対しては、速やかに保護者へ連絡し家庭と協力して指導を行う。またクラスアドバイザー、就職担当者、留学生担当者などによる面談を実施するなど、教職員全体で取り組む。履修状況を確認しつつ個別に履修指導、教科指導、生活指導などを行う。 ・精神的な悩みなどがあるものについては、早期に学園のカウンセリング対応をすすめる。 ・前年度の進路状況を振り返り、就職セミナーや学科内就職系授業で対策を講じる。 ・前期中、就職活動への意識ならびに緊張感を高めることを狙いとしたオンラインによる模擬面接を実施する。また年度内に3回の進路希望調査を行い、学生の志向把握に努めると共に、就職におけるミスマッチを防止する。 ・対面とオンラインとのハイブリッド対応で企業説明会を積極的に開催すべく、キャリアサポートセンターと連携し企業に呼びかける。 ・学生との個人面談と共に、Google チャットを利用した就職活動状況の把握と積極的な求人斡旋を行う。 ・キャリアサポートセンターと連携し、新規求人企業の開拓に努める。

3 評価項目別取組状況

※評定の内容

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>メディアとエンターテインメント業界の人材育成を行うことに特化した学校として、適確な内容で理念が定められている。これを目的として教職員の行動指針、また各学科の教育方針に活かされている。しかし、教職員・学生・保護者・関連業界への周知（再認識も含め）や見直しについて、若干不十分な部分もあり、更なる工夫が必要である。</p> <p>本校は「クリエイター養成」を掲げ、映画・映像・アニメ・小説といった高い創造性を求められる分野において、発想・表現力を育む授業を展開している。</p> <p>同時に、職業教育を最重点事項として掲げ、徹底した実践主義のもと専門知識や技能を身に付け、社会的・職業的自立に向け、必要な姿勢など基盤となる能力の育成を行っている。</p> <p>そのためには業界のニーズに敏感に反応し、その対応を可及的速やかに遂行していかなければならない。そのための人材確保も重要な課題と考えている。</p> <p>実習の実施にあたっては関連業界からの協力も得ており、職業実践専門課程、キャリア形成促進プログラムに認定されている。</p>	<p>理念や教育方針について、全方向に浸透させるため、文書化されたものの露出度をあげる。また常に変化するエンターテインメント業界に対応するためにも、定期的に確認し、適宜見直しを図る。</p> <p>様々な業界情報の入手や産学の連携に努める他に、インターンシップなどの積極的な実施により就職のチャンスを増やし、企業、業界と学生とのミスマッチ低減に努めていく。そして最前線で活躍する業界講師との連携により、将来の業界を支える人材育成を行っていく。</p>	<p>特になし。</p>

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	3	<p>学園理念は、専門分野の特性を明確にした教育方針に通じており、教職員の行動指針もまたこれに基づく。</p> <p>学園理念や目標計画、方法は文書化されており、東放学園ホームページや学生ガイドなどに掲載され、学生・教職員・保護者などに周知している。</p> <p>学園が目指すエンターテインメント業界への人材育成と輩出の中で、本校の役割とも言える「クリエイター養成」を掲げ、その主たるジャンルを学科としている。毎年度、校長の掲げる事業計画を意識し教職員は実行している。</p> <p>変化の大きい関連業界の動向や人材ニーズに対応するため、育成人材像については業界の関係者などが委員として参画する教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などで見直しを行っている。</p>	<p>恒常的な部分を意識した理念ではあるが、学園が目指すエンターテインメント業界は常に変化しており、定期的に確認、また適宜見直しを図ることが必要である。</p> <p>学園理念、教育方針を定着させるための周知活動をより一層強化する必要性はある。</p>	<p>教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などで、学外有識者からの意見聴取を積極的に行い、関連業界が必要としている人材像の把握に努める。</p> <p>教育現場だけではなく、企業などからも具体的な周知方法をご教授頂き浸透させていくことも検討する。</p>	<p>TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書)</p> <p>保護者のみなさまへ (保護者向けパンフレット)</p> <p>東放学園ホームページ</p> <p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>東放学園 コミュニティーサイト (教職員専用)</p>
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	3	<p>学科担当者や就職担当者、講師を含め、業界関係者と連携して業界のニーズを把握している。</p> <p>また、業界のニーズを教育目標・育成人材像に反映させるために、教育課程編成委員会を設置している。</p>	<p>創造性・個性醸成のための教育や技術進歩への対応と併せて、挨拶や礼儀など、ビジネスの現場で必要とされる能力育成のための教育を両立させる必要がある。</p>	<p>各学科担当者や就職担当者が、継続的に幅広い意見を取り入れるなどして、随時改善していく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>教育課程編成委員会議事録</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<p>業界経験者を教員として採用し、必要に応じて教職員の現場研修などを実施している。また、業界団体主催のセミナー参加を奨励し、専門性の向上を図っている。実習の実施にあたっては、関連業界からの協力も得て、職業実践専門課程、キャリア形成促進プログラムに認定されている。研究論文の研究紀要でも、外部の専門家の講評を行っている。</p> <p>幾つかの実習授業については、関連業界等の協力を得て行っている。</p>	<p>日常業務との兼ね合いで、専任教員が現場研修に参加する時間を十分に確保できているとは言えない。</p>	<p>関連業界等との連携は年々密になって来ているので、実習や教員の研修などで連携する機会を、更に増やしていく。</p>	<p>研修報告書 研究紀要</p>
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4	<p>理念に即したクリエイター養成を重視し、現場のクリエイターを講師に招き、より実践的な作品作りに取り組んでいる。</p> <p>機材・設備も業界標準に則したものを導入している。</p>	<p>特に無し。</p>	<p>特に無し。</p>	<p>施設・設備一覧 学生ガイド(シラバスなど) インターンシップ関連書類</p>
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	<p>社会のニーズに応えるため中期的な視点に立ち、事業計画に沿って学校を運営している。</p> <p>運営会議(理事・校長)などにおいて、事業計画の進捗状況を把握した上で検証を行い、その結果を教職員に周知している。</p>	<p>学生・保護者・関連業界などへも周知しているが、機会は限定的である。</p>	<p>東放学園ホームページで周知することなどを検討していく。</p>	<p>事業計画書(当年度・5ヵ年) 事業計画中間報告書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念を実現するよう、また、高い創造性を求められる映画・映像・アニメ・小説といった分野に対応できるよう、技術的な訓練だけでなく、発想・表現力を評価する授業を各学科で用意している。その為に教員の質を上げることや現役クリエイターを呼ぶことを重視している。</p> <p>学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会など業界団体や企業とも提携し、学校・学科の見直しと、より実践的な授業を実施している。</p>	<p>学校として実践教育に努めている。具体的には授業の過程で成果物（作品）が制作される形態の実習授業が多く、学校の特色のひとつと言える。成果物の評価方法については、業界で活躍する講師の評価を取り入れることに努め、業界の評価基準と乖離しないようにしている。</p>

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【運営方針】 事業計画に関連した運営方針を明確化し、教職員全体研修会や東放学園コミュニティサイト（教職員専用）において学内に周知している。また、各種諸規程の整備を行っている。</p> <p>【事業計画】 中期的構想に基づき、単年度並びに 5 ヶ年事業計画書を毎年度作成し、理事会・評議員会で執行状況の確認を行っている。</p> <p>【人事・給与制度】 基本理念及び事業計画に基づき、人材確保と育成が行われている。人事考課制度、賃金制度、採用制度などが整備されており、毎年度見直しを行っている。</p> <p>【意思決定システム】 各階層別の会議体を設置し、必要に応じた意思決定が円滑になされている。今後も各種諸規程の整備を検討し、適切かつ円滑な意思決定システムの確立につなげる。</p> <p>【情報システム】 学生支援を目的とした、業務全般を広くサポートする各種システムが整備されている。また、これらのシステムを次世代の教育現場に順応すべく、クラウド利用への移行を順次進めている。セキュリティ対策については、全体防御型のセキュリティを視野に入れ、継続的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>【運営方針】 5 ヶ年事業計画に基づいて、顧客のニーズに柔軟に応えられる先進的な教育機関になるべく、教職員自らが変化に対応できるように様々な取り組みを行う。あわせて、リスク要因管理方針を明確にし、リスク要因などを洗い出し、対策のための取り組みを進める。</p> <p>【事業計画】 特になし。</p> <p>【人事・給与制度】 法改正に則った改正を適宜行う。</p> <p>【意思決定システム】 各種諸規程の整合性を図りつつ、必要な規程の整備を進める。</p> <p>【情報システム】 学内のシステム運用者をはじめ、関連委員会や外部委託業者などと継続的に検討を行い、学生支援をより一層強化したシステムを構築し実用化を進める。業務におけるクラウド利用の増加に伴い、セキュリティ対策を根本から見直し、全体防御型のセキュリティへ改める。</p>	<p>特になし。</p>

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	運営方針は部門ごとに事業計画書に目標などを明記し、教職員全体研修会や教職員向けウェブサイトにおいて、口頭及び文書で周知している。 運営会議などにおいて、随時チェックしている。	運営方針を遂行することについて、教職員全体で統一した意識を持つことが要求される。	新任者などもいるため、教職員研修などを活用して繰り返し説明する。	事業計画書 東放学園コミュニティサイト（教職員専用）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の目的・目標に基づき、学校運営方針は事業計画書に明記し、全教職員に対して明示されている。今後も全教職員が実際の場面で実践していくことが求められる。	特になし。

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	4	<p>5ヵ年事業計画を定め、さらに各当該年度における具体的な単年度の事業計画を策定している。</p> <p>事業計画をもとに予算を策定し、項目ごとの役割分担などを明確にしている。</p> <p>事業計画の執行については半期ごとに進捗状況をチェックしている。項目によっては、事業計画年度のスパンの組み替えに、柔軟な対応を取っている。また、事業報告書を年に一度作成し、理事会・評議員会にて報告を行っている。</p>	事業計画の進行の遅れや内容の変更などに柔軟に対応することが必要である。	事業計画の各部署での継続的なチェックと各会議体での検証を徹底する。	5ヵ年事業計画書 事業計画書（単年度） 事業計画中間報告書 事業報告書（単年度）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
5ヵ年事業計画書に基づいて、本学園全体・各部門の当該年度事業計画を策定し実行するとともに、運営会議などにおいて進捗状況を把握し、検証を行っている。また、事業報告書を年に一度作成し、理事会・評議員会にて報告を行っている。	次年度事業計画書の内容を年度末の役職者研修会で周知し、運営方針・年間事業計画の円滑な遂行ができるようにしている。一般教職員に対しては、教職員全体会や教職員向けウェブサイトにおいて、各部門の事業計画について説明し周知している。なお、事業報告書は東放学園ホームページに公開している。

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<p>寄附行為に基づき理事会・評議員会を開催し、必要な審議を経て議事録を作成している。</p> <p>また、寄附行為の改正の必要が生じた場合は、適正な手続きを経て改正している。</p>	特になし。	特になし。	寄附行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	<p>必要な組織を構成し、本学園全体の組織を明示した組織図を整備している。学校運営に支障が生じないよう、必要に応じて改定している。</p> <p>各部署の業務分掌を整備した上で、円滑な組織運営のための規則・規程などを整備している。</p> <p>会議体・委員会の業務分掌を明確にしている。また、部署にまたがる横断的な取り組みの際は、プロジェクトを立ち上げ、柔軟な考えを取り入れ易いようにしている。会議・委員会の議事録は、開催ごとに作成し、運営会議へ報告した後、教職員へ公開している。</p> <p>現況に合わせて、規則・規程などを改定する場合は、規程等管理規程に基づき、運営会議などで審議し適正な手続きを経て改定している。</p>	規則・規程の策定期が異なるため、内容に表記ゆれがある。	規則・規程の改定がなされるときに、他の規則・規程との関連性に充分配慮した上で、改定を担当する会議体・委員会にて表記ゆれを正していく。	組織図 各規程 会議・委員会・連絡会一覧 プロジェクト一覧

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		業務分掌に基づき、毎年個人及び部署ごとに年間目標計画を作成している。特に個人については、自己研鑽や学内外の研修に関して具体的な計画を記入し、積極的に取り組んでいる。毎年度末に、その結果を確認し、役割と責任を明確にしている。			年齢・役割区分に基づくキャリア構築

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校運営を円滑に進めるために意思決定機能が明確な運営組織図を定め、目標達成に向けて、実際の懸案事項を処理・解決する会議体を効率よく機能させている。	特になし。

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	<p>新卒・中途採用ともに、障がい者・外国人を含めた多様な人材を公正に採用している。採用は、基準、手続きなどを就業規則などに定め、これに則った情報公開により、必要な人材確保に努めている。</p> <p>賃金の構成、支払方法、所定内・所定外給与、賞与ほかを賃金規程に定め、適切に運用している。</p> <p>人事評価は半期毎、また通年単位で実施し、これに基づき昇(降)格・昇(降)給を行う。評価は、年度当初、役割に応じて個々が策定した年間目標計画に対して実施し、目標に対する達成状況は、自己評価も考慮し評価を決定している。</p>	<p>新卒・中途ともに採用ガイドラインが整備できている。しかし、障がい者採用はまだ経験が浅く、採用過程における注意や、障がいの程度に応じた配慮事項の記載などには改善の余地がある。</p> <p>規程は法改正に合わせて柔軟な対応をし、適切な運用をしているが、これにあわせた基準などの定期的な見直しは、まだ不十分である。</p> <p>被評価者が、目標の策定・実現をしやすくするための役割区分の定義や、働き方を見直すための項目追加などを2018～2022年度まで継続して検討実施した。これにより基準はより明確になったが、今後も継続した考察は必要である。</p>	<p>労働政策、雇用情勢なども視野に、不十分な内容は加筆修正を進め、さらなる最適化を目指す。</p> <p>働き方に関する法改正などの情報収集は常に行い、定期的な点検を実施することで、さらなる最適化を目指す。</p> <p>役割定義に基づいた教職員のキャリア構築を可能とするため、個々の育成とも連動し、制度の定着を推進する。</p>	<p>就業規則 事業計画書 教職員募集要項 就職情報サイトほか 採用ガイドライン 賃金規程 評価の基準 教職員の年齢・役割区分に基づくキャリア構築 役割区分の定義 年間目標計画 実績・通年評価の基準</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事・給与制度は、適切な運用を行っている。今後も、より精度をあげるため、現行運用の基準などは規程として整備し、評価者・被評価者双方に、より解りやすく役立つものにしていく。	2-4「運営組織」と連動し、労働政策や雇用情勢など（ダイバーシティの推進、様々な働き方の検討、有給休暇の取得促進ほか）に合わせた施策も実施し、教職員のモチベーションアップ・活性化を進めている。

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	組織図及び階層ごとの会議体を設置し、学校運営に必要な意思決定の判断基準を個々に規則・規程などで明確にしている。	特になし。	特になし。	組織図 会議・委員会・連絡会一覧 各種管理規程など

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定のために必要な会議体を設置し、それらに応じた意思決定がなされている。各会議体の持つ権限があり、運用段階において最終的には運営会議、理事会・評議員会において審議し決定している。	特になし。

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	3	<p>学生支援に基づく情報管理および関連する業務処理を行うため、各種情報管理システムを連動し運用している。データは一元化され、最新の情報が保持できるよう更新を行っている。クラウド利用への移行を順次進めるとともに、各システムの適宜更改によりシステムの安定稼働に努めている。</p> <p>セキュリティ対策としては、継続的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>セキュリティ対策においては、過去年度より継続し注意を払っているが、不測の事態などへの対策について引続き評価・見直しを行う必要がある。</p> <p>また現行のシステムを見直し、学生支援をより向上させるためのシステムの構築および実用化を目指す必要がある。</p>	<p>セキュリティ対策として、学内のシステム運用者をはじめ、関連委員会や外部委託業者などと継続的に評価・見直しを進めていく。</p> <p>次世代の教育現場に即したシステム導入の実現を図り、より一層効果的に業務全般をサポートする環境の構築および整備を進めていく。</p>	各システムの構築図 各運用マニュアル 個人情報保護に関連する各種規程類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生支援を目的とした業務全般を広くサポートする各種システムの連動が整っており、適切な情報提供や業務遂行がなされている。現状での運用においては大きな問題はないと考えられるが、より教育環境に即したシステムの構築および導入の実現を図る必要がある。あわせて継続的にセキュリティ対策として、評価・見直しを行うことが不可欠である。</p>	<p>(整備されている情報管理システム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集システム ・学籍管理システム ・成績管理システム ・パーソナルデータシステム ・JIST（就職情報検索システム） ・STAR（デビュー情報検索システム） ・同窓会（卒業生管理）システム ・予算、経理管理システム

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【カリキュラムの構築】 学園の基本理念（己と和と成長）に沿って、カリキュラム編成を行い、学生ガイドなどに明示している。 年に2回、教育課程編成委員会を実施している。業界関係者より最新の動向と必要な教育内容を聴取し、カリキュラムに反映している。 また学科ごとにカリキュラム会議を行い、職業実践教育を意識した授業を行っている。 近年、業界の求めるスキルが多様化しており、科目の配置に関しても迅速な更新が求められている。</p> <p>【授業評価とインストラクションスキル】 各科目の適正な位置付け、及びシラバスの作成と提示はかなり進んでいる。 授業評価アンケートに関して、全ての必修科目で行っているが、全科目での実施には至っていない。また実施に際して関連業界団体と協力ができていない。 また現状で、教員のインストラクションスキルを向上させるための研修は充分実施できているとは言えない。</p> <p>【教員・教員組織】 教員の年齢バランスに関して、専任・兼任教員の高齢化が見られ検討が必要である。</p>	<p>【カリキュラムの構築】 カリキュラムが形骸化しないよう、今後も業界ニーズを意識して、教員・講師の協業を深めつつカリキュラムのバージョンアップを目指す。 引き続き教育課程編成委員会などを通じて関連業界との交流を深め、最新の情報を素早く掴み、カリキュラムに取り入れていく。 業界のトレンドを常に意識し、カリキュラムマップなどを作成して現状カリキュラムの検証を行うと同時に、学生への細やかな指導にも活かしていく。</p> <p>【授業評価とインストラクションスキル】 全科目で授業評価を実施すると共に、関連業界団体と連携する必要性も含め検討する。 教員のインストラクションスキルを向上させるため、教職員の増員など、必要な研修に積極的に参加できる体制を構築していく。</p> <p>【教員・教員組織】 教員の年齢バランスに関しては、短期間での改善は難しいため、人事育成部や運営会議などと共に改善策を検討していく。</p>	<p>【資格取得について】 映画・映像・アニメ・小説などのスキルには、ほとんど資格が存在しない。したがって資格取得に関する指導体制は、本校では重要事項には位置しない。それでも各自の持つスキルやアビリティを、資格という形で明確にすることは、職業教育を最重点に掲げている本校としては、非常に有意義なことといえる。そこで本校では「学内資格」という形で、個々の学生のスキルを形にする試みを行っている。 業界的に資格が必須の条件ではないが、学生の教育目標となる資格を調査し、幾つかの認定試験や検定を奨励・実施している。</p>

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化する等明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	<p>学園の基本理念(己と和と成長)に沿って、カリキュラム編成を行っている。職業教育に関する方針は、徹底した「実践教育」「人間教育」「自立教育」として定めている。</p>	特に無し。	特に無し。	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>東放学園ホームページ</p>
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	3	<p>学生ガイドにおいて、各学科の目標、到達レベル(求められるスキル)を明示しており、学園理念に基づいた段階的な2年間のカリキュラムを整えている。</p> <p>業界的に資格が必須の条件ではないが、技術的な面でのスキル証明としてJPPA(日本ポストプロダクション協会)主催の『映像音響処理技術者資格認定試験』、CG-ARTS(画像情報教育振興協会)主催の『CGクリエイター検定』、一般的な社会人スキルとして必要とされるPCスキル、日本情報処理検定協会主催の各種資格を奨励している。</p> <p>また資格試験に関しては取得を目的とした対策講座も実施している。</p>	<p>近年、求められるスキルが急速に多様化している。</p> <p>資格については業界に対応するものが少ない。</p>	<p>求められるスキルの多様化に対応するため、カリキュラムを柔軟に見直していく。</p> <p>業界必須ではないが、学生の教育目標となる資格を調査し、実施に向けた検討をしていく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>東放学園ホームページ</p> <p>JPPA(日本ポストプロダクション協会)HP</p> <p>CG-ARTS(画像情報教育振興協会)HP</p> <p>日本情報処理検定協会HP</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園の基本理念に沿った教育目標を設定し、教育方針である「実践教育」「人間教育」「自立教育」についても、学生ガイドなどに明示している。また、段階的な教育目標を策定し明示している。</p> <p>資格取得は必須ではないが、学生の教育目標となる資格を検討していく。</p>	<p>変化の激しい業界の動向に合わせて柔軟にカリキュラムを更新する体制を維持することが、業界ニーズに応えるために必要である。</p>

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成する等教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	3	<p>教育課程編成委員会を設けており、そのための規程も整えている。また、議事録を作成し編成過程を明確にしている。</p> <p>入学から卒業までのカリキュラム全体の流れと、それに対応する個々の科目の位置付けは明確にしている。</p> <p>カリキュラムの編成は各学科内で実施される「カリキュラム会議」にて作成し、校長・教務教育部長の承認にて決定している。</p> <p>授業科目の開設において専門科目、一般科目は区分に応じて適切に配分しており、必修科目、選択科目についても適切に配分している。</p> <p>進級、卒業に必要な取得時間数は明示されている。</p> <p>各学科とも学科の目標を掲げ、さらに科目毎の目標を明確に落とし込んでいる。</p> <p>授業内容・授業方法は、各教員、講師とも関連団体・企業などが主催するセミナーに参加し、知識力・技術力の向上を図りつつ、日々研究を重ねている。</p> <p>業界の動向を取り入れており、職業実践教育を意識して講義・演習・実習等を適切に配分している。</p>	<p>学科においては、数多くの職種が学べる利点は有るが、その反面必修授業と選択授業の位置づけが難しい点がある。</p> <p>一部の科目に於いては、講義、演習、実習の定義が曖昧な部分がある。</p> <p>年々カリキュラムを見直していく中で、複雑化していき、学生の理解度が心配な面もある。</p>	<p>業界のニーズをもとに、必修授業・選択授業の配分・位置づけは、優先順位を念頭に改めて各種会議体で見直す。</p> <p>各学科のカリキュラム会議により、講義、演習、実習の区分を明確にする。</p> <p>学生から見ても理解しやすいカリキュラムマップなどを作成することをすすめていく。</p>	<p>東放学園コミュニティサイト(教職員専用)</p> <p>教育課程編成委員会会議議事録</p> <p>カリキュラム会議議事録</p> <p>東放学園ホームページ</p> <p>学生ガイド(シラバスなど)</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		<p>職業実践教育の視点で、教職員はカリキュラム会議、授業担当講師は、授業を通じて内容、教育方法、教材の工夫をしている。その上で、シラバス・コマシラバスを作成している。</p> <p>履修科目登録はシステム化され、次年度より正式運用を開始する。各期の開講時期に行っており、クラスアドバイザーが指導・確認を行っている。</p> <p>教育課程を検討するため、教育課程編成委員会やカリキュラム会議を定期的に行い、見直しや改定をしている。</p>	<p>カリキュラムの複雑化による学生の履修理解度が落ちていると感じる。</p> <p>次年度からシステム化されるキャンパスプラン(学園総合情報システム)の運用状況が気になる点である。</p>	<p>カリキュラムの理解度を上げるためにカリキュラムマップなどを作成し、履修する学生へ指導にあたる。</p> <p>キャンパスプラン(学園総合情報システム)の必要なシステムは教職員の方で十分にマスターできるよう勉強会などを開催していく。</p>	キャンパスプラン(学園総合情報システム)
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	<p>在校生に対し、各学期末に授業評価アンケートを実施している。また、卒業生に対しても、学校や授業に関するアンケートを実施している。</p> <p>キャリアサポートセンターが中心となり、企業訪問の際に意見聴取や評価を聞き取っている。</p> <p>毎年度実施している教育課程編成委員会などにおいて、業界・機関などの意見聴取や評価を行っている。</p>	特になし。	特になし。	<p>授業評価アンケート結果報告書</p> <p>卒業生アンケート</p> <p>教育課程編成委員会会議議事録</p>

<p>3-9-3 キャリア教育を実施しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/>キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/>キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか</p>	<p>4</p>	<p>キャリア教育の実施にあたって、学園の教育方針である「実践教育」「人間教育」「自立教育」に基づき、社会的、職業的自立に必要な能力の育成、特に専門特化した職業に就くための心構え、方法などを方針としてカリキュラムに取り入れている。 各学科でプロフェッショナルになるための教育内容・教育方法・教材（教科書の作成）などについて工夫している。 業界や時代のニーズが常に変化するため、臨機応変な対応が必要とされている。 業界特性を考慮しフリースタンスとして活動するためのキャリア教育を行っている。 卒業生に対してアンケートを実施している。キャリアサポートセンターが中心となり、企業訪問の際に意見や評価を聞き取っている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>学生ガイド（シラバスなど） TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE（学校案内書） 各種教科テキスト 東放学園ホームページ 卒業生アンケート キャリアサポートセンター報告書</p>
<p>3-9-4 授業評価を実施しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/>学生に対するアンケート等の実施等、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/>授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/>教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか</p>	<p>3</p>	<p>各学期の終了時に授業評価アンケート(Googleformを使用)を実施している。 アンケートに関して関連業界などとの協力体制はない。 学科担当教員へのフィードバックを行い、講師と授業方法についての改善に活用している。</p>	<p>授業評価に関して、全ての必修科目で行っているが、全科目での実施には至っていない。 アンケートの実施に際して関連業界団体と協力できていない。</p>	<p>全科目で授業評価を実施すると共に、関連業界団体と連携する必要性も含め検討する。</p>	<p>授業評価結果報告書 各種アンケート結果報告書 Googleform</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成においては、年2回開催する「教育課程編成委員会」を中心に、業界団体より意見を聴取するなど、外部の意見を反映し、学科内でのカリキュラム会議にて決定している。</p> <p>卒業生や就職先に対してもアンケートなどを実施しており、体制として整っている。</p> <p>授業評価は限定的な導入段階であり、全科目の実施には至っておらず、関連業界団体の協力体制も整っていない。その必要性も含め検討していく。</p>	<p>教育方針・教育内容やカリキュラム内容は、全て学生ガイドに明示して周知している。各教科、専門特化した職業に関連するものが大半を占めており、業界理解と職種理解を深めるためのカリキュラムとしている。</p>

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定する等明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	<p>学則の規定及び学生ガイド内の成績評価・時間数の認定に関する説明で明確化されている。</p> <p>進級・卒業判定会議を実施し、客観性・統一性を確保している。</p> <p>他の教育機関の履修は、学則に規定し、適切に運用している。</p>	特になし。	特になし。	学生ガイド(シラバスなど) 東放学園ホームページ
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<p>コンテストなどの入選及び受賞実績については、随時把握している。中には卒業後に、在学時制作した作品でエントリーしていることもあるため、卒業生との情報交換などを含めた交流も重要である。</p>	特になし。	特になし。	東放学園ホームページ 映画制作科 「映画賞受賞・ノミネート作品」

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>成績評価・時間数の認定は、明確化され学生などに明示している。進級・卒業判定会議を実施することにより客観性・統一性を保っている。</p> <p>他の教育機関の履修については、学則に規定し適切に運用している。</p> <p>コンテストへの参加を奨励しており、近年では受賞する事例も出てきているため、今後も情報の収集に留意する。</p>	<p>一部の学科では、卒業制作作品が卒業後のコンテストで受賞する例もあり、継続的なリサーチが重要である。</p>

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	3	該当する資格・検定試験については学生ガイドに記載され、その必要性について説明がなされている。(例:映像音響処理技術者、CGエンジニア検定、CGクリエイター検定、日本情報処理検定協会主催の各種検定試験ほか)	専門分野では、映像編集系、CG・画像処理系、一般向けであるため、専門性の資格が少ない。	再度、業界寄りの検定・資格試験を調査し、学科として必要であるかを検討していく。	学生ガイド(シラバスなど)
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	3	該当する資格がある学科については資格取得のための対策講座を実施しサポートしている。上記の資格検定に関する講座を設けている。	不合格者、卒業生への指導体制は整備されていない。	業界的にも資格取得が必須でないため、その必要性をキャリアサポートセンター内の卒業生支援室とで検討していく。	特になし。

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
一般的に映画・映像・アニメ・小説などのスキルに対応する資格は少ないが、業界への採用基準(必須条件)ではない。そのため資格取得に関する指導体制について、本校では重要事項としていない。	映像音響処理技術者資格認定試験、CGクリエイター検定、CGエンジニア検定、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、文書デザイン検定、プレゼンテーション作成検定、文章入力スピード認定試験の案内や対策講座を行っている。

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等把握しているか	3	<p>学科の育成目標を掲げ、教員に必要な指導力、スキルを明確にしている。</p> <p>資格が必要な授業科目が少ないため、明示していないが、新任教職員は助手からはじめ、規定年数就業した者を、職業教育・キャリア教育財団／東京都専修学校各種学校協会主催の「教員教職課程の研修」を受講させ、修了認定証を受け教員として着任している。</p> <p>他に関連業界レベルに適合させるため業界経験者を教員として採用するほか、兼任（非常勤）教員の人材を確保する上で、関連業界関係者から紹介を受けるなど、連携を図っており、業界実績も含め採用している。</p> <p>教育現場と人事育成部間で連携し、採用計画、採用規定などを定めている。</p> <p>専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等の教員構成について、全ては明示していない。</p> <p>教員の募集、採用手続、昇給措置などについて規程、就業規則などに定めている。</p> <p>教員一人当たりの授業時数、学生数は、成績情報管理システムで把握している。</p>	<p>専任・兼任（非常勤）教員について、現在は人数のみ公開しており、年齢構成や男女比などについては明示していない。</p> <p>年齢的には専任・兼任（非常勤）教員の高齢化が見られ、年齢バランスとともに検討が必要である。</p>	<p>専任・兼任（非常勤）教員の年齢構成や男女比などについて、明示すべきかを検討していく。</p> <p>特に専任教員の年齢バランス問題は、早期に対策が必要であるため人事育成部を中心に、運営会議など基幹となる会議体で検討していく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>東放学園ホームページ</p> <p>東放学園コミュニティーサイト(教職員専用)</p> <p>一般財団法人職業教育・キャリア教育財団東京支部／公益社団法人東京都専修学校各種学校協会主催「専修学校教員教職課程研修のご案内」</p> <p>成績情報管理システム</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援等教員のキャリア開発を支援しているか	3	<p>若手教員の授業を役職者が見学し、アドバイスしている。授業評価アンケートの他に、授業の履修率、出席率を学生による総合的な評価の現われと捉え、評価に努めている。</p> <p>学園全体や、学内で研修を行い、教員の資質向上に努めている。</p> <p>関連団体の主催する研修などに、必要性と内容により参加している。</p> <p>学内には教員の自己研鑽などのため、研究紀要への取り組みがあり、キャリア開発支援の一環となっている。</p>	<p>授業を担当する教員の多くは、授業準備や学生対応などのために、研修の機会を逃すこともある。</p>	<p>研修機会の確保、支援のための仕組みを検討していく。</p>	<p>授業評価アンケート結果報告書</p> <p>成績管理システム</p> <p>研修報告書</p> <p>研究紀要</p>
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	4	<p>各学科に主任を置き、業務や学生の把握、改善に努めており、必要な教員体制を整備している。</p> <p>業務分担・責任体制を規程として整えている。年度ごとに一覧表を作成し学園内教職員が閲覧できるコミュニティーサイトにて閲覧できるようにしている。</p> <p>各学科で定期的にカリキュラム会議を開き、教員間（専任・兼任）で連携・協力体制を構築しており、授業内容・教育方法の改善に取り組んでいる。年度末には次年度体制について専任・兼任教員による講師会を開催し意識統一も図っている。</p>	特になし。	特になし。	<p>学生ガイド（シラバスなど）</p> <p>要員配置表</p> <p>東放学園コミュニティーサイト</p> <p>教育課程編成委員会議事録</p> <p>カリキュラム会議議事録</p> <p>講師会資料</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>各学科の育成目標を掲げ、必要な指導力やスキルの向上を目指している。さらに業界経験者を教員として採用したり、現場研修を体験させたりしている。</p> <p>学園全体での研修や、学内研修、研究授業の実施、研究紀要への取り組みなど、教職員の資質向上に努めている。</p> <p>教員体制の改善に取り組みつつ、教育課程を形成する3つの会議体（「教育課程編成委員会」「カリキュラム会議」「講師会」）を活用し、相互における情報共有を行っている。</p>	<p>専門性の高い分野は、その教育内容の質的評価において個人の経験値に頼る部分が多い。</p> <p>今後は各学科の教員が専門分野における育成目標とそのプロセスを明確にし、学内で共有していくことで、客観性を持った教員採用、専門性のチェックと研修の実施を行えると考える。</p>

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【就職・進路支援・指導について】 就職担当者を配置し、さらに東放学園として対企業との就職・進路の総合的窓口である「キャリアサポートセンター」を設置することにより、恒常的に就職率・進路決定率の向上を図っている。</p> <p>【卒業生情報の把握と支援】 本校は何等かの「モノ」を表現することに特化した学校である。したがって在校生の作品が外部から評価を得る機会是非常に多い。 また、本学園は伝統的に卒業生の活躍に支えられていることを強く認識している。そのために、卒業生や在校生の社会的活躍や評価の把握は、重要と捉えている。 企業との連携で、在校生や若い卒業生が活躍出来る「場」の提供を積極的に仕掛けている。これも本校の最大の「強み」と認識している。 また、上記のキャリアサポートセンター内にある「卒業生支援室」や「TOHO会（同窓会組織）」と連携し、卒業生情報の把握と支援を行う体制を恒常的に整えている。これにより、さらに卒業生との関係が深まることと期待している。</p>	<p>【就職・進路支援・指導について】 本校在校生が目指す映像分野の職業は拘束時間が長く、休暇が取得しにくいなど、早期離職率が高いのが現状である。「就職すること以上に、継続することが困難」と言わざるを得ない。その現状を踏まえて「離職率」を下げるための指導を強化する。 就職指導に関しては、動き出しの早い学生からサポートしていくことで、その動きに周囲が感化される傾向にあるため、意識の高い学生を早めにサポートするような施策を行う。</p> <p>【卒業生情報の把握と支援】 卒業生と卒業後も良い関係を継続できるよう、更に心掛けていく。在学中から良好なコミュニケーションを築くよう心掛け、卒業後も適宜サポートを行っていく。</p>	<p>【就職とデビューについて】 映像関連の学科（映画制作科・プロモーション映像科・アニメーション・CG科）については該当する分野の企業へ就職するという目標を持ち得るが、一方で小説創作科のような学科は学生個々人がクリエイターとしてデビューを果たすことを目標とするなど、キャリア構築のための支援も一様ではない。 従来の就職支援と同様に、新人賞などへの投稿促進や外部プロジェクトへの学生参加など、学生のデビューに繋がる活動も学校の重要な取り組みのひとつとなっている。</p>

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	3	<p>就職率の目標数値を掲げている。</p> <p>クラスアドバイザー、就職担当者が年3回の進路アンケートを実施し、個別面談と報告書にて就職活動状況を把握している。年度末に向けて、無業者がでないよう個々の志望に合った進路指導を行っている。</p> <p>業界企業へは、キャリアサポートセンターと協同で企業への求人確認をするなど、状況把握に努めている。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「就職セミナー」を“オンライン面接対策”として開催。「学内企業説明会」も対面・オンライン双方向対応可能としている。またフリーランス現場での就業に対する理解を深めるべく「フリーランス講座」・「フリーランス心得講座」を行っている。</p> <p>キャリアサポートセンター主催の就活キックオフイベントを10月に行い、就職に対する意識を高めた上で、12月、2月に合同企業説明会を開催している。</p>	<p>就職希望者のみならず、フリーランス形態での就業を志望する学生や作家志望の学生と、進路サポートにおいては多岐に渡るため、その情報収集や体制作りが課題である。</p> <p>約3年間新型コロナウイルス感染拡大の影響にて求人数の減少や外部の合同企業説明会が軒並み中止になり、学生の進路内定の遅さにつながっていたが、今年度は内定スピードが回復傾向となった。</p> <p>動き出しの早い学生からサポートしていくことで、その動きに周囲が感化される傾向にあるため、意識の高い学生を早めにサポートするような施策が必要である。</p>	<p>フリーランスを希望する者には、卒業後の人脈形成の第一歩として、インターンシップなどで現場に出る機会を今以上に増やしていく。</p> <p>作家志望の学生にはコンテストへの応募促進のほかに、生活に支障がないような業界外企業の紹介もしつつ、兼業作家としての生活イメージをよりリアル化して、卒業後の作家デビューへの道を指導していく。</p> <p>動き出しの早い学生をサポートする施策を検討する。</p>	<p>研修開始申告書 内定報告書 進路決定報告書（進学・デビュー） 「進路アンケート」 東放学園コミュニティーサイト（教職員専用） 「進路決定者集計表」 「進路決定者一覧」 「研修者一覧」</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職決定率の向上を図るために就職・進路担当者、クラスアドバイザー、キャリアサポートセンターとの連携を図っている。</p> <p>フリーランスや作家志望など卒業時の目標が、必ずしも就職ではない進路を選択する学科もあり、そのサポートは多岐に渡る。フリーランス志望者にはインターンシップ紹介、作家志望者にはコンテスト応募を勧めるなどで対応している。</p>	<p>小説創作科は卒業後の作家デビュー支援として、本校と卒業生支援室がそれぞれで主催となり「卒業生勉強会」（無料）を開催している。</p> <p>時に、映画業界のフリーランスインターンシップは、卒業生経由での依頼や文化庁委託事業「映画スタッフ育成事業」経由にて実施している。また、特定非営利活動法人 映像産業振興機構【VIPO】が主催する会合にも出席し、情報共有などを行っている。他にも『アニメ人材パートナーズフォーラム（AJPF）』、『日本ポストプロダクション協会（JPPA）』と情報共有のうえインターンシップや求人情報の案内をしている。</p>

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	<p>業界に直接関連しない一般的な資格に関しては、特に目標設定はないが、積極的に資格取得を促している。映画・映像・アニメ業界の必須の資格はないが、担当教員によるセミナーを開講し、受験者の支援を行っており、資格取得率の向上を図っている。</p> <p>特別講座は各学科で実施している。</p> <p>全国水準との比較を行って、合格実績から指導方法の改善に取り組んでいる。</p> <p>映画制作科、プロモーション映像科、映画 VFX 専攻科では「JPPA 映像音響処理技術者資格認定試験」、アニメーション・CG 科では「CG クリエイター検定」、映画 VFX 専攻科では「CG エンジニア検定」と、各科で目指す資格はあり、近年の合格率を通じ、対策講座の担当や指導方法の改善を行っている。</p>	<p>資格の有無で採用が左右される業界ではないので、資格取得に対するモチベーションをどう上げるかが課題である。</p> <p>卒業後、別業界へ就職を希望している学生向けへの対応も必要である。</p> <p>資格試験受験者が年々減少していることも課題である。</p>	<p>技術系資格は取得資格が一つのステータスであることをアピールし、資格取得を勧める。</p> <p>併せてスキル習得を学内資格でもアピールできることを学生に普及させていく。</p> <p>受験者増に向けて学生への情報伝達の機会を増やしていく。</p> <p>別業界への就職を希望する学生に対しては、各々の希望する業種を汲み取りつつ、キャリアサポートセンターと協同し、一般企業求人の開拓およびマッチングを図っていく。</p> <p>エンターテインメント業界のみではなく、社会人としての PC 基本スキル (Office 系) の資格取得も学生に推奨していく。</p>	学生ガイド(シラバスなど)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>映画・映像業界の必須の資格は多くはないが、担当教員による試験対策講座を実施するなど、取得率向上のサポートを行っている。</p> <p>「JPPA 映像音響処理技術者認定試験」「CG クリエイター検定」「CG エンジニア検定」など業界特有の資格に関しては、資格取得率の向上を図っている。</p>	<p>「JPPA 映像音響処理技術者資格認定試験」は、学園内の会場にて受験できる。</p>

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒業後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>卒業生・在校生の社会的活躍や評価は、日々のキャリアサポートセンターの職員や就職担当者による企業訪問でのヒアリングや、在職調査により、データ収集を行い把握している。</p> <p>卒業生情報は教職員や卒業生支援室がTOHO会(同窓会組織)などと連携し把握をしている。</p> <p>受賞者の情報は、主催団体の担当者や、卒業生本人からの報告により把握しており、可能な限り表彰式などに参加している。</p>	各教職員が個々に情報を把握している事があり、情報の共有ができていないケースが見受けられる。	<p>対象卒業生の了解が取れば、卒業生の活躍・評価情報は東放学園コミュニティーサイトで共有する。</p> <p>卒業してからも卒業生と良い関係が築けるように、今以上に在学中からコミュニケーションを取るよう心掛ける。</p>	TOHO会ホームページ Colorful (TOHO会会報誌) 卒業生在職調査 東放学園コミュニティーサイト(教職員専用) 東放学園ホームページ

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>卒業生が来校した際や企業に訪問した際に様々な情報を収集し、学内で共有している。また関連業界での各種受賞が生じた場合には、対象卒業生の了解を得た上で、東放学園ホームページやTOHO会ホームページで広く公表している。</p>	<p>本校はクリエイター養成機関であるため、就職活動と同様に学生のコンテストにおける評価も重視している。また本学園は、伝統的に卒業生が最も重要な財産であることを強く認識しているため、卒業生や在校生の社会的活躍や評価の把握は、重要だと捉えている。結果として入学希望者のきっかけにもなっている。</p>

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【就職・進路】 就職・進路指導に関しては、クラスアドバイザーおよび就職担当者を置き、指導にあたっている。姉妹校との進路担当者連絡会（キャリアサポ委員会）などの会議で情報を共有し、進路決定率向上に努めている。</p> <p>【学生生活】 学生相談は、クラスアドバイザーが様々な相談に応じている。また、奨学金担当者、就職担当者、留学生担当者を設けそれぞれ内容に応じた対応・相談を受けられる体制を整えている。 部・クラブ・同好会が学校の規定により公認・設置されている。教職員が顧問となっており、活動状況に応じた補助金を支給し、安全対策も考慮されている。この2年間、コロナ禍により活動が停止しており、活動再開の時期と継承が問題となっている。 ㈱共立メンテナンスと提携し、指定寮を紹介している。また、一人暮らしを希望する学生に関しては㈱東放学園サービスが紹介している。 学生に何らかの問題が発生した際は、クラスアドバイザーより保護者に連絡を入れ、連携して指導に当たっている。 学生生活の近況はカレッジダイアリー（公式ブログ）を公開しており、保護者にも告知している。 学生の経済的支援としては、できるだけ希望に沿う様な分割方法で学費納入の分納を認めている。また、独自の奨学金制度を持っている。 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、メンタルの問題を抱える学生が増えている。週に1回カウンセラーが来校し、メンタル面の相談などに対応している。</p>	<p>【就職・進路】 進路アンケート未回答者や就職系授業の未履修者へのアプローチを密にするなど更に丁寧な対応を心がける。 就職関連の特別授業として継続して行っている「年金講座」、「租税教室」、「スーツの着こなしセミナー」などに加え、「ポートフォリオ講座」など新しい取り組みも行う予定である。 近年、学園全体で加入しているグループウェア「Google Workspace for Education」を使用した学生の進路サポートを整備している。今後、新しいツールの利用を活性化するため、より早い段階から指導に取り入れていく。</p> <p>【学生生活】 クラスアドバイザーと学務管理部が更に連携し、学校生活をより中身の濃いものにできるようにサポートしていく。退学者を一人でも減らし、「本校を選んで良かった」と言ってもらえるように、サービスや環境を整備していく。 前年度同様「保護者会」をオンラインで実施し参加者も増加しているが、保護者との連携を深める為にも、今後はさらに充実した内容になるよう検討したい。 部・クラブ・同好会については、コロナ禍により2年間活動が停止しているが、社会情勢を注視しつつリスクの低いものから順次再開できるよう検討していく。 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、保健室の利用者も増大している。今後、保健室の拡大やベッドの増設など、対応を検討していくと同時に、カウンセリング室の充実も図る。</p>	<p>【就職・進路支援】 学科特性から企業就職以外の進路も視野に入れ指導している。「JIST（就職情報検索システム）」「STAR（デビュー情報検索システム）」のほか新システム「キャンパスプラン（学園総合情報システム）」を用いて効果的な就職支援体制を整えている。</p> <p>【経済的支援】 東放学園奨学金制度（対象：2年生） TOHO会『夢応援』奨学金制度（同窓会組織 対象：2年生） 東放学園特別育英奨学生制度（対象：1年生・2年生） 日本学生支援機構奨学金 東京都育英資金</p> <p>【卒業生支援】 卒業後も「キャンパスプラン（学園総合情報システム）」を継続利用できるように整備している。卒業生支援室が卒業生企画のイベント、リカレント、転職等々をサポートする体制を整えている。 東放学園の「TOHO会（同窓会組織）」があり、活発に活動している。在校生に対する奨学金制度も設けており、活動は充実している。</p> <p>【中途退学への対応】 メンタルを起因とした体調不良者が増加傾向にあり、保健室のキャパシティが不足してきている。 まずは教職員に対してカウンセリングに係る研修への参加を奨励し、重篤化の防止に努めていく。</p>

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界などと就職に関する連携体制を構築しているか	3	<p>6名の教職員が就職・進路担当者として、各学科の目指す業界に合わせた授業を開講しており、個別の就職相談や履歴書作成のためのアドバイスや面接対策も行っている。</p> <p>また、クラスアドバイザーも相談に応じ、学生個々の情報は、パーソナルデータシステムを通じて共有できる体制としている。</p> <p>求人情報に関しては、キャリアサポートセンターが管理しており、「JIST（就職情報検索システム）」「STAR（デビュー情報検索システム）」に加えて、キャンパスプラン（学園総合情報システム）を1年次に案内している。それらを利用して学生は自由に求人を見ることができるようになっている。</p> <p>進路・就職活動実績のある学生には、「会社説明会・会社訪問・入社試験報告書」など、その都度報告書を提出するよう指導し、関係教職員で情報を共有できるようにしている。</p>	<p>学生の就職に対するモチベーションの維持と向上は常に課題である。</p> <p>進路・就職活動の状況は、報告書の提出を徹底し、パーソナルデータシステムへの入力を行い、把握できる状態になっているが、報告書の提出に関してはこちらから学生へ聞き取りを促さないと提出されない場合が多々有り、完璧に報告書のみで就職活動の動きを把握することは難しい。</p> <p>履歴書添削や各種就職関連書類の提出のほか、進路相談や求人案内などを現在Googleチャットやドライブを利用して行っているが、学生のITリテラシーレベルによっては上手く使いこなせないことがある。</p>	<p>進路アンケート未回答者や就職系授業の未履修者へのアプローチを密にしてい</p> <p>く。</p> <p>活動に関しての激励や些細な事においてもサポートする気持ちで接する努力をする。</p> <p>就職活動において、Google Workspace for Educationの各種ツールを使用し、求人案内の閲覧、各種提出書類の受け渡し、進路相談等を行えるシステムの使用方法を1年次からレクチャーし、利用するよう促していく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)キャリアガイダンス(就職活動用テキスト)</p> <p>内定報告書 会社説明会・会社訪問・入社試験報告書</p> <p>JIST(就職情報検索システム) STAR(デビュー情報検索システム) パーソナルデータシステム キャンパスプラン(学園総合情報システム)</p> <p>Google Workspace for Education Google Classroom Google チャット</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-16-1 続き	<input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	3	<p>就職に関する連携は、主にキャリアサポートセンターや校舎の就職担当者が担っており、連絡会などを通じ情報の共有などを行う体制を構築している。随時学内で会社説明会を実施するほか、企業訪問を行い、採用フローを企業と担当者間で相談するケースもある。企業との窓口は主にキャリアサポートセンターが担っている。</p> <p>就職関連の特別授業として、「ポートフォリオ講座（株式会社ビビット）」、「年金講座（新宿年金事務所）」、「租税教室（新宿税理士会）」、「スーツの着こなしセミナー（株式会社コナカ）」などを行っている。</p> <p>また学園全体で加入しているグループウェア「Google Workspace for Education」を使用した学生の進路サポートの整備を構築している。「Google Classroom」や「Google チャット」を利用して情報共有、学生の行動把握、個人とのコミュニケーションを図っている。さらに履歴書や報告書のデータ化、オンライン提出などネットツールを利用した就職活動を促している。</p>	VFX・CG 業界や動画配信業界など、今後より一層の発展が臨まれる業界にて、本校の学生の志望とマッチングする企業を新規開拓する必要がある。	企業説明会の企業ラインナップの見直しと、新規企業の紹介をキャリアサポートセンターと連携し再検討していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職・進路指導に関しては、クラスアドバイザーおよび就職・進路担当者を置き、授業と個別での指導にあたっている。姉妹校とはキャリアサポ委員会で情報を共有し、課題の改善に努めている。</p> <p>間接部門として企業窓口や求人情報をまとめるキャリアサポートセンターを設置している。キャリアサポートセンター管理で「JIST（就職情報検索システム）」「STAR（デビュー情報検索システム）」を用いて効果的な就職支援体制を整えている。</p>	<p>学科特性からフリーランス就業形態や作家を志望する者など、企業就職以外の進路も視野に入れ、指導している。特に作家志望者には、卒業後のライフスタイルをリアル化し、それをイメージさせながら就職活動をするよう指導している。</p> <p>就職・進路関係の授業を実施し、業界への就職活動の進め方から、各学科に合わせた企業説明会なども実施している。</p>

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<p>退学者数などの情報は、学籍管理システムにより担当教職員が入力し状況を把握している。</p> <p>長欠者に対しては、クラスアドバイザーが必ず個人面談を行い対応しており、その情報は、パーソナルデータシステムに時系列で入力し、経過記録も保存し、教職員会議などでも共有している。</p> <p>中途退学低減に向けて、原因究明をしつつ、内容的に重度の精神・心理的な悩みや相談においては、月4回来校するカウンセラーが対応をしている。更には、T-PEC(株)と提携し、常時相談受付のできる「東放学園こころとからだの相談ダイヤル24」(電話相談から専門医とのカウンセリングまで)サービスも提供している。</p> <p>クラスアドバイザーが丁寧に経緯や事情の聞き取りを行っている。長欠学生の保護者に対しては都度状況を報告することで中途退学の未然防止に努めている。</p> <p>オンラインによるGoogle Classroomを活用してホームルームなどを実施した。</p>	<p>コロナウイルス感染拡大による影響など、緊急時に対応できる学内の奨学金制度(減免、給付、貸与など)充実性が課題である。</p> <p>「文部科学省：高等教育の修学支援新制度」について、担当者以外も必要最低限の情報は理解し、学生に情報を周知していくことが課題である。</p> <p>メンタルを起因とした体調不良者が増加傾向にある。保健室および学生相談室の拡充が必要である。</p> <p>中途退学者防止策をより徹底すると同時に、その関連性や連動性も調査していく必要がある。</p> <p>カウンセラーの紹介も必要であるが、ストレスや不安を感じている学生を早期に発見するクラスアドバイザーの初期対応スキルが重要視される。</p> <p>昨年度からのオンラインによるGoogle Classroomの運用が学生にどの様に影響しているか、今後も利用していくのは有効なものなのかを検証する事も課題となった。</p>	<p>学費相談会などを定期的で開催し、きめ細かく対応するほか、奨学金・国の教育ローンの紹介を継続的に行っていく。また、経済的支援を目的として学内における奨学金枠を増やせないか、または緊急時の新規案を検討する。</p> <p>「文部科学省：高等教育の修学支援新制度」を学生、保護者に周知する。</p> <p>カウンセリングは状況を見ながら回数ややり方を検討していく。</p> <p>施設スペースの問題もあるが、同時に複数名の学生が体調不良を訴えるケースに備えて保健室および学生相談室の拡充を検討していく。</p> <p>クラスアドバイザーに対してカウンセリングスキル向上に係る研修への参加を奨励していく。</p> <p>中途退学者防止策については実施報告を基に、より充実した内容と連携を高めるため、保護者間との連携案を検討していく。</p> <p>Google Classroomを含め、アフターコロナ時代に、オンラインシステムをどのように運用していくか検討が必要である。</p>	<p>学籍管理システム カウンセラー掲示 カウンセリング実績報告書 パーソナルデータシステム 学生ガイド(シラバスなど) 東放学園こころとからだの相談ダイヤル24 (T-PEC) hyper-QU Google Workspace for Education (GoogleClassroom)</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラスアドバイザーと学務管理部が連携し、学生の欠席状況などを早期に把握出来る体制にある。退学率低減のために、学生との面談を繰り返し、学生個々の事情を把握する必要があると思われる。中途退学者防止策を近年進めているが、今後はその内容と改善点も含め検討が必要になっている。</p> <p>中途退学者防止策として、学生と保護者のコミュニケーションも重要と考え、現在のサービス提供内容を含め、継続的に検討を重ねている。</p>	<p>コロナ禍におけるクラスでの情報伝達や共有・交流の場所として、Google Workspace for Education (Google Classroom) を利用している。</p> <p>学内全体として各種の悩み相談には、月4回カウンセラーと相談が受けられる環境と、在校生とその保護者に対し電話で24時間対応できるよう「東放学園こことからだの相談ダイヤル24」のサービスを提供している。</p>

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	3	<p>日常的にはクラスアドバイザーが対応しているが、重度の精神的な悩みを抱える学生には、月4回カウンセラーが来校し相談に応じている。</p> <p>学園内に学生相談室を設置しており、個人情報保護の環境で行っている。</p> <p>掲示などでカウンセラー来校日を告知し、相談予約も受付けている。</p> <p>相談記録はカウンセラーが記入し、個人情報に配慮しながら、状況により教職員が内容を把握している。各期末には傾向と対策として、カウンセラーと担当教職員にてのミーティングを定例化し、質の向上に努めている。</p> <p>必要に応じて校医に相談している。</p> <p>長期休暇中の対策も含め、「東放学園こころとからだの相談ダイヤル24」を(株)T-PECと提携し、学生のみならず保護者まで対応している。</p> <p>卒業生には主にクラスアドバイザーが対応し、就職・転職に関する相談は校舎の就職担当者やキャリアサポートセンター、International Centerの教職員で対応している。</p>	<p>カウンセラーの認知度が上がり利用者が増えたが、同じ学生が繰り返し利用する傾向が生じており、新規での相談者の受け入れがしづらい状況になっているため、そこが課題となっている。また授業期間内での対応ほか長期休暇中のサポートも必要である。</p> <p>「東放学園こころとからだの相談ダイヤル24」は利用者数が少なく、専任カウンセラーとの連携強化が必要である。</p>	<p>カウンセラーの利用状況を見ながら、日程・回数を検討していく。</p> <p>カウンセリングに関して、心理・精神的サポートに加え、医療機関専門医とも提携していくことを検討している。</p> <p>各カウンセリング策についての見直しをしつつ学園内の姉妹校とも連携し検討していく。</p>	<p>カウンセラー掲示 相談実績 学生ガイド(シラバスなど) 東放学園こころとからだの相談ダイヤル24 (株)T-PEC</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談などに対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理など生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	<p>校舎に留学生担当者を配置し学園の間接部門にInternational Centerを設置している。</p> <p>年3回オリエンテーションを実施し学生指導および生活状況を把握している。クラスアドバイザーと留学生担当者が出席状況などを管理しており出席不良者で音信不通となった学生に関しては自宅訪問も行っている。留学生全員に対して個別面談を実施している。</p> <p>日本での就職活動において、その進め方やアドバイスを講座形式の授業や個別でも対応している。ビザの知識と日本語能力向上は最も重要と考え、International Centerによる就職活動でも活かせる「日本語講座」を開講している。</p> <p>指導記録はパーソナルデータシステムに入力して管理している。</p>	<p>オリエンテーション欠席者は、連絡の取りづらい学生でもあるため要注意留学生と言える。その対応は常に対策を講じていくことが重要であり課題である。</p> <p>日本語能力の低さ（入学後は日本語力強化を怠ること）から教職員の指導内容が理解できていないところが見受けられる。</p> <p>留学生の在籍増に合わせて、同国出身者同士で母国語による会話をしていたり、日本人学生とのコミュニケーション不足からの問題が発生していることも有り、その対応が課題である。</p>	<p>特に注意を要する留学生に関しては、クラスアドバイザーと留学生担当者が協力して、個別に対応していく。</p> <p>留学生担当者以外の教職員にも必要最低限の知識を習得させることを検討していく。</p> <p>キャリアサポートセンターおよびInternational Centerと連携し、学生のニーズに合わせた就職先の開拓を積極的に行う。</p> <p>日本人学生との交流と、日本での就職活動において最も重要な、日本語レベルの向上策として、日本語講座を開き、更に参加を促す指導をしていく。</p> <p>留学生の在籍管理担当者が、学園における管理マニュアルを作成し、より徹底していく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日常の相談はクラスアドバイザーと留学生担当者が応じている。また、奨学金担当者、就職担当者のように、その目的に応じた相談が受けられる体制も整えている。</p> <p>専任カウンセラー、電話相談など学生相談体制は充実してきている。</p> <p>年々増加傾向にある留学生に対し、その管理体制も強化している。</p>	<p>カウンセラーの配備、電話・Webを利用した相談サービス設置している。</p> <p>International Centerによる留学生向け日本語講座（就活直前対策日本語講座）を開講している。</p>

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時などに対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	3	<p>東放学園特待奨学生制度、東放学園卒業生子女奨学金制度、東放学園卒業生・在校生 兄弟姉妹奨学金制度、東放学園奨学金制度(経済困窮者)、東放学園特別育英奨学生制度(成績優秀者)、TOHO会「夢応援」奨学金制度(同窓会組織)がある。</p> <p>緊急支援としては理事会にて審議の上、見舞金を給付している。また災害発生時には安否確認のできるシステムを導入している。</p> <p>学費の支弁困難者においては事前相談を受け、特例措置として分割納付も認めている。また2年次後期授業料相当額を免除する東放学園奨学金制度を設けている。国の教育ローン、日本学生支援機構の奨学金などについては入学前の募集要項で情報提供をし、入学後は経済的支援制度をホームルームや掲示にて学生に伝達し、説明会や個別相談にて対応している。保護者には「保護者会」を通じて案内している。</p> <p>また、各種奨学金の利用状況はシステムにおいて管理しており把握している。</p>	<p>経済的理由で退学をするケースが増えている。</p> <p>奨学金の貸与学生に、入会の手続きに関する周知と管理、更には返還に対しての意識向上の徹底が必要である。</p> <p>在校生のみならず、経済面で関わる保護者に向けても学校の情報を提供していくことがより一層必要である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大など社会的に救済が必要な事態に対し、緊急で対応する奨学金制度を検討していく必要がある。</p> <p>必要な手続きや説明会開催などについては、ホームルームや掲示などで呼びかけているが、より分かりやすい告知を心がける。</p> <p>2年次後期に開催する返還説明会において、返還に対する意識づけ強化を徹底していく。</p> <p>在学時における保護者への情報提供については、その手段も含め、姉妹校とも情報共有をしつつ検討している。</p> <p>卒業学年の貸与学生に対して実施している返還に関する説明会の内容見直しを行う。</p> <p>「文部科学省：高等教育の修学支援制度」を学生、保護者に周知する。</p>	<p>募集要項 学生ガイド(シラバスなど) 東放学園奨学金規程 日本学生支援機構 HP・同パンフレット 東京都私学財団 HP・同パンフレット 学則 学費納入規程 文部科学省：高等教育の修学支援制度リーフレット</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか	3	<p>学校保健計画は定めていないが、学校保健法に従い、毎年健康診断を実施し、結果は校舎で保管し、学生には配布している。また、再検査の者に対しては再度受診するよう促している。</p> <p>常駐はしていないが、校医は専任している。保健室は設置している。</p> <p>健康に関する啓発は、行政や関係機関の案内などを校舎内に掲示している。教育は特に実施はしていないが、必要に応じて校医と相談して対応をしている。</p> <p>精神的サポートとして、心理カウンセラーと精神保健福祉士を配置している。</p>	<p>定期健康診断での有所見者に対して再検査を促しているが、確実にしているかの追跡確認までできていない。</p> <p>心身の不調から保健室を利用する学生が年々増加傾向にある。保健室の拡充および講習受講を通じた教職員の救命スキルの向上が肝要である。</p> <p>心の病を持つ学生が増加傾向にあるため、カウンセラーの他に精神保健福祉士も配置しているが、相談内容などの守秘義務も強くあり、連携などが難しい状況であると思われることが課題である。</p>	<p>クラスアドバイザーと学務管理部が連携し、再検査の受診状況を確認し、未受診者が出ぬよう徹底指導していく。</p> <p>同時に複数名が利用することが出来る保健室の設置および教職員の救命講習の受講を促していく。</p> <p>校医と相談して健康管理に関する啓発活動を行っていく。</p> <p>カウンセリングに関しては、2社と提携しているが、1本化する方が良いか継続的に検討していく。</p>	年間スケジュール カウンセラー掲示 相談実績
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	4	<p>関連企業と提携し、指定の学生会館などを紹介している。また、一人暮らしを希望する学生に関して(株)共立メンテナンスに紹介し対応している。</p> <p>学生個々の入寮情報は把握しているが、学生寮の状況はすべてを把握できていない。</p>	<p>仲介業者が入るため、特に寮費など経済的な面での体制は十分とは言えない。</p>	<p>長期計画で本学園の所有する学生寮を検討してみても良い。</p>	<p>入学パンフレット 学園サポートシステム (株)共立メンテナンスホームページ 東放学園サービスホームページ</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	<p>昨年度から今年度にかけては新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、承認団体の活動は一旦休止している。</p> <p>部・クラブ・同好会を、学内の規程により公認・設置し、運営面で支援をしている。教職員が顧問となり、活動状況に応じた補助金も支給している。また、合宿など実施する際の安全対策も考慮されている。</p> <p>大会成績などは、各団体の顧問である教職員が把握している。更には、協会や連盟の委員を担当する教職員からも情報を得る事ができる体制となっている。</p>	参加人数が多くない。 (授業の兼ね合いなどで運動部では試合に出られないことがある。)	引き続きクラブ活動を活性化することを奨励していく。	クラブ活動規程 学生ガイド（シラバスなど） 合宿チェックリスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校独自の奨学金制度や日本学生支援機構、東京都私学財団などの公的制度の窓口を学校が担っている。学費分納も申請により認めている。健康管理、生活環境、課外活動など状況に応じて安心して在学できる環境を提供している。</p> <p>近年、奨学金貸与制の返還問題が大きく取り上げられている事も含め、返還に関する説明会の内容の見直しが必要になっている。</p> <p>「文部科学省：高等教育の修学支援新制度」の今後の動向によっては、学内の各種奨学金制度の見直し、新たに新制度の検討が必要となる。</p>	<p><本校独自の奨学金制度></p> <p>【入学前】 東放学園特待奨学生制度：学費の一部免除（対象：特待生チャレンジ入試出願者） 東放学園卒業生子女奨学金制度：入学金半額免除（対象：本学園の卒業生子女） 東放学園卒業生・在校生 兄弟姉妹奨学金制度：入学金半額免除（対象：本学園の卒業生、在校生の兄弟姉妹）</p> <p>【入学後】 東放学園奨学金制度・2年次後期授業料相当免除（対象：2年生） 東放学園特別育英奨学生制度・後期授業料分相当給付（対象：1年生・2年生） <学外だが、本学園の設置する専門学校在校生のみ対象> TOHO会『夢応援』奨学金制度（対象：2年生）</p>

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催など、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談などの機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面などの問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	<p>今年度は9月10日に「保護者会」を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より昨年度同様オンラインにて開催した。参加者数は昨年度を大きく上回り、保護者の学校への関心の高さを窺い知ることが出来た。保護者には学校の情報などは郵便や東放学園ホームページ、公式ブログで案内している。</p> <p>怠業学生の面談時の内容は、パーソナルデータシステムに時系列で保存し、必要に応じクラスアドバイザーより電話で保護者と情報共有している。</p> <p>学業の成績や出席状況、緊急連絡先については、学籍管理システム、成績管理システム、パーソナルデータシステムにおいて管理されている。各期終了後（10月・3月）保護者には、成績表を送付し、修学状況も報告している。</p>	<p>保護者会は年々参加者が増加傾向にあり、保護者の学校への関心の高さが窺えるが、学校側としては発言者間での連携をしっかりと取ることで説明の齟齬を防いでいく必要がある。</p> <p>とりわけ保護者の一番関心が高い進路指導状況については、学校側としての指針を明確化した上で発言をする必要がある。</p>	<p>保護者に対し、十分な情報提供がなされているかを検証していく。</p> <p>保護者会開催にあたっては予め教職員間において学校の指針を含めた発言内容の一貫性を明確化する準備をしていく。</p> <p>成績表送付に関しては、その活用法において検討していく。</p> <p>「カレッジダイアリー」更新の頻度と、ブログの周知活動、並びに更新対応を担当者間で継続的に検討していく。</p> <p>次年度より導入予定のキャンパスプラン（学園総合情報システム）により、専用のWebサイトにて保護者への情報提供を行うための準備をすすめる。</p>	<p>「カレッジダイアリー」（公式ブログ）</p> <p>パーソナルデータシステム</p> <p>保護者向け成績表</p> <p>キャンパスプラン（学園総合情報システム）</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>出席不良時の電話、手紙などでの連絡、メール、東放学園ホームページ、公式ブログ「カレッジダイアリー」での学校情報の提供などを駆使して保護者と連携をとるようにしている。</p> <p>保護者対応として今年度もオンラインにて保護者会を開催した。</p> <p>各学期末（10月・3月）に、保護者へ成績表を送付し在校生の修学状況を共有している。</p>	<p>学生生活の近況は公式ブログ「カレッジダイアリー」にて公開しており、保護者にも告知している。</p> <p>【URL】 https://blog.tohogakuen.ac.jp/movie/</p>

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<p>TOHO会（同窓会組織）が組織され、教職員が委員として連携し把握をしている。</p> <p>卒業後もインターネット上からアクセス可能な学園独自の求人サイト「JIST（就職情報検索システム）」・「STAR（デビュー情報検索システム）」、新システム「キャンパスプラン（学園総合情報システム）」を用いてキャリアアップセミナーの案内もしている。</p> <p>卒業生の再就職、キャリアアップに関しては、キャリアサポートセンターが中心となって相談に応じている。</p> <p>研究支援ではないが、小説創作科は、作家活動支援として、本校と卒業生支援室のそれぞれが主催となり、隔月1回「卒業生勉強会」を実施している。映画制作科は業界の特徴でもあるフリーランス就業を望む卒業生に対し、在校生同様に映画制作のスタッフ紹介を行っている。</p>	<p>勤務時間が不規則なことが多い業界なので、卒業生のキャリアアップセミナーへの参加者はあまり多くはない。</p> <p>キャリアサポートセンター卒業生支援室と連携して卒業生の早期離職・転職にともなう対策、サービスが必要である。</p>	<p>既の実施しているSNSの利用のほか、インターネットを活用したコミュニケーションのアイデアを検討していく。</p> <p>教職員の参加や卒業生に個別の呼びかけを実施する。</p> <p>キャリアサポートセンター卒業生支援室と連携し、卒業生の各種支援を強化する策を検討する。</p>	<p>TOHO会ホームページ Colorful（TOHO会会報誌） 同窓会定時総会資料 JIST（就職情報検索システム） STAR（デビュー情報検索システム） キャンパスプラン（学園総合情報システム）</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体などと再教育プログラムについて共同開発などを行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界などと連携・協力を行っているか	3	<p>TOHO 会（同窓会組織）との共催で、キャリアアップセミナーを適宜開催している。小説創作科の作家志望者へは再教育を実施し、作家デビューの支援をしている。</p> <p>映画 VFX 専攻科（夜間部） 【文部科学省「キャリア形成促進プログラム」】を卒業生を含めた関連業界に PR している。</p> <p>担当教職員による企業訪問、関連団体のセミナーなどで情報交換しつつ連携している。文化庁：特定非営利活動法人 映像産業振興機構【VIPO】、日本動画協会：AJPF（アニメ人材育成フォーラム）へ参加し、連携・協力を行っている。</p> <p>映画 VFX 専攻科の PR 要素ともなる厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」の申請は受理され昨年度より認定を受けた。</p>	<p>TOHO 会（同窓会組織）のセミナーは定期的には実施していない。</p> <p>社会人も対象となる映画 VFX 専攻科の学科 PR 活動が、卒業生へむけての十分な情報発信ができていないことが課題である。</p>	<p>TOHO 会（同窓会組織）と連携して活性化を図っていく。</p> <p>映画 VFX 専攻科の PR 要素ともなる厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」を募集活動においてどの様に取り上げて行くかを継続的に検討していく。</p>	<p>文部科学省「キャリア形成促進プログラム」 映画 V F X 専攻科：パンフレット、募集要項 厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」</p>

<p>5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>□社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則などに定め、適切に認定しているか □社会人学生に配慮し、長期履修制度などを導入しているか □図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか □社会人学生などに対し、就職など進路相談において個別相談を実施しているか</p>	<p>3</p>	<p>社会人経験者独自の入学や履修などの特別な措置は行っていないが、映画 VFX 専攻科の文部科学省「キャリア形成促進プログラム」対象の厚生労働省「教育訓練給付制度」に認定を受けたため、社会人の学費補助になる。 施設利用に関しては、社会人学生を問わず、開放している。 就職に関しては、施設利用同様、社会人学生の特別扱いはせず、在籍学科内での「就職講座」または「進路対策講座」内にて担当者による個別対応、企業紹介などを実施している。卒業生をゲストとして企業説明会を実施しているケースも有る。 就職活動においては、必要に応じ、社会人経験を売りにするため、個別対応の中で「職務経歴書」作成のサポートも行っている。</p>	<p>映画 VFX 専攻科は、リカレント教育の一つでもあるため、卒業生に限らず広く周知することが課題である。 社会人学生の年齢が課題であり、再就職なども含めると高齢者の受け入れは現実的ではないため、この点においては課題である。</p>	<p>社会人経験者に対してのリカレント教育として、引き続き本校での可能性を検討していきたい。 社会人学生の受け入れに関しては慎重にすすめることが必要のため、関係各所とも連携しながら対策を検討していく。 就職担当者と教務教育部、キャリアサポートセンターとが連携し採用の機会を増やしていく。</p>	<p>映画 VFX 専攻科：パンフレット、募集要項</p>
--	--	----------	--	--	---	-------------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>TOHO 会（同窓会組織）が活発に活動している。学校と連携し、在校生に対する奨学金制度を設けるなど活動は充実している。卒業生支援に関しては、キャリアサポートセンターに卒業生支援室を設け、卒業生企画のイベント、リカレント、転職などをサポートする体制を整えている。 業界企業に就職をした卒業生には、可能な限り学内説明会の場を提供し、在校生が近い将来像をイメージしやすくなるようにしている。 本校におけるリカレント教育の一つでもある「映画 VFX 専攻科」の卒業生を中心とした周知活動が重要である。</p>	<p>TOHO 会（同窓会組織）、東放学園ホームページ、Colorful（TOHO 会会報誌）の発行、メールマガジンの発行を行っている。コロナ以前の対面における学園祭時には「ホームカミングデー」と称し、卒業生が学校に来校しやすい工夫をしていた。卒業生支援イベントも国内・海外問わず年数回、適宜開催している。 こうした同窓会と学校との連携を図るため教職員から連絡担当者を選任し、役員会などに参加している。 映画 VFX 専攻科（夜間部）の文部科学省「キャリア形成促進プログラム」として認定された。同学科の厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」指定講座として認定。</p>

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【校舎設備】 設置基準に基づき、一般教室、保健室、教職員室、学生ホール、図書室などを設置している。また、実習・演習スタジオ、PC ルームなども整備している。施設や設備の保守点検など、専門の業者に委託して定期的にメンテナンスを行っており、適切に維持している。</p> <p>新型コロナウイルスの感染リスクを軽減するため、校舎各所に除菌スプレーや空気清浄機を設置するなど、安全安心な施設の維持に努めている。</p> <p>施設の利用状況などを調査し、有効に利用しているかを検証する。</p> <p>【学外研修】 学外実習、業界団体主催のインターンシップなどの機会を設け、充実した教育体制を整備している。インターンシップ実施の際は、参加学生に事前研修を行うなど、受け入れ企業に向けた指導をしているが、実施の難しい学科もある。</p> <p>海外研修に関して、コロナ禍以前は毎年度、機会を設けていたが、近年は社会情勢もあり実施できていない。</p> <p>【防災設備】 防災訓練を定期的にも実施しており、施設に必要な防災設備（火災報知機、スプリンクラー、消火栓、消火器、AED など）も備えられている。自衛消防隊を組織し、避難経路図を掲出すると共に非常時に備え飲料水や食料なども備蓄している。</p> <p>教職員向けに「災害対策マニュアル」を作成し全教職員に携帯させている。学生には「災害対策カード」を配布し、授業中以外でも対応ができる体制を整えている。</p>	<p>【校舎設備】 校舎設置から 18 年が経過し、各所で徐々に不具合が生じてきている。教職員や警備員、清掃員などで日頃より丁寧に見回りを行い、不具合などがあれば迅速に対応していく。</p> <p>法人本部と連携し、照明設備の LED 化や全館のバリアフリー対応などを進めていく。</p> <p>施設の利用状況を確認の上、最適化を推進する。机や椅子、視聴覚設備の更新などを進める。</p> <p>【学外研修】 学外実習やインターンシップは、職業体験としてだけでなく、社会人としてのマナー習得などでも重要な機会となっているため、コロナ禍という制約の中でも可能な限り継続して実施していく。小説創作科など実施の難しい学科では、代わる内容などを検討している。</p> <p>海外研修に関し、以前は毎年度実施していたが、3 年間実施できていない。学生にとっては貴重な機会となるため、社会情勢を鑑みつつ、再開を模索していく。</p> <p>【防災設備】 災害対策委員会を中心に、各マニュアルを適宜アップデートしていくと同時に、教職員はもちろんのこと、学生にも安全性を最優先に考えた意識や行動、使用方法を継続して指導していく。</p>	<p>学生の専門スキル向上のためにも、インターンシップの活用例を増やしていく必要がある。しかしコロナ禍もあり、受け入れ先の企業や受け入れて貰える人数が減少している。</p> <p>海外研修に関しては、出入国の手続きが緩和されても、渡航前の発熱によるキャンセルや渡航先での発症なども考えられるため、学校としての実施は難しい情勢である。</p>

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備などの日常点検、定期点検、補修などについて適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備などの改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	<p>設置基準に基づき一般教室、保健室、教職員室、学生ホール、図書室などを設置している。また実習・演習スタジオ、PC ルームなどを整備している。</p> <p>図書室は専門分野を中心に充実している。映画・映像系の学校として学生向けにDVD 作品の無料貸出サービスも充実している。</p> <p>各フロアに学生ロビーを確保し、授業時間外の休憩場所として開放している。</p> <p>バリアフリー化は、現時点では一部対応となっている。</p> <p>月1回(株)丸誠サービスに、年2回(株)シーティエスに委託し施設・設備の保守点検を行い、清掃員・警備員を配置し衛生管理については日常から適切に確保している。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策として都度消毒液や除菌液などの消耗品、備品を購入し配置している。</p> <p>卒業生からの施設・設備の使用申請には、可能な限り協力している。</p> <p>法人本部が中心になり、修繕計画を定め、定期的に修繕などを行っている。</p>	<p>予てより校舎内の設備のバリアフリー化が一部のみだったため、今後少しずつ進めていくことが課題である。</p> <p>校舎の施設老朽化に対し、メンテナンス面での強化が必要である。</p> <p>法人本部主導により学園内の施設全てが全館 LED 化される計画が進行中であるが、優先順位として本校は数年後実施の予定となっているため、遅れている。</p>	<p>学生が多目的に使用出来る環境となることを目指すべく、一部の教室において机・椅子を増設する。</p> <p>教室内視聴覚設備の充実を図るべく、複数の教室内に設置されているプロジェクターを更改予定である。</p> <p>施設のメンテナンスに関して、教育環境の最適化維持のため、法人本部と連携し必要に応じ検討していく。</p>	<p>TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書)</p> <p>校舎竣工図</p> <p>定期点検報告書</p> <p>消防設備点検報告書</p> <p>各種実施報告書</p> <p>事業計画書</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>設置基準に基づき、一般教室、保健室、教職員室、学生ホール、図書室などを設置している。また、実習・演習スタジオ、PCルームなども整備している。月1回、委託業者により保守点検など、定期的メンテナンスを行っており、施設設備を適切に維持している。</p>	<p>業界標準施設、設備、機材を備え、関係業界の就職に必要な基本スキルを身につけられる環境を整えている。</p> <p>学生に対し、DVD作品の無料レンタルサービス（作品研究）を実施している。</p> <p>法人本部主導により学園内の施設全てが全館LED化される計画が進行中であるが、優先順位として本校は数年後の実施予定となっている。</p>

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修などの実施体制を整備しているか	<p>□学外実習などについて、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか</p> <p>□学外実習などについて、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか</p> <p>□関連業界などとの連携による企業研修等を実施しているか</p> <p>□学外実習について、成績評価基準を明確にしているか</p> <p>□学外実習などについて実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか</p> <p>□学外実習などの教育効果について確認しているか</p>	3	<p>学外実習は、映画や映像制作における撮影（ロケなど）が主であり、授業科目として実施し、その評価もしている。例年は、海外研修も実施しているが、一昨年からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施を見送っている。</p> <p>また各実習の実施の際はその都度各担当教職員より実施要綱を作成し、情報共有している。</p> <p>関連業界との連携においてはインターンシップがある。プロモーション映像科、アニメーション・CG科、映画 VFX 専攻科においては、授業科目としても実施しており、その評価も行っている。また、授業と併用して採用試験の一環として実施する事がある。</p> <p>インターンシップは企業の担当者や学科担当者、進路・就職担当者が十分に協議した上で実施している。</p> <p>その成果や評価に関しては、学生から提出される報告書、事後に行う企業の担当者との評価面談において確認し協議している。</p>	<p>インターンシップにおいては、その概念が職場体験から採用目的まで多様化しており、今後はさらにその位置づけの明確さが重要になると思われるため、その対策・対応が課題となる。</p> <p>学生の専門スキル向上のためにもインターンシップは、より活用例を増やしていく必要があるが、受入れる現場の環境整備が必要である。</p> <p>海外研修に関しては、可能な限り設置学科全てに該当する内容で企画する必要がある。</p> <p>学制的にインターンシップが成立しづらい小説創作科においては、内容を含め課題である。</p>	<p>インターンシップの多様化に十分対応できるようマニュアル化も進めていくことも検討していく。</p> <p>特に採用へ繋がる傾向が近年多くみられるので、その傾向に合わせて対応していくことを検討していく。</p> <p>海外研修においては、今後内容、時期を検討していく。</p> <p>小説創作科の目指す人材像を踏まえた上で、学科担当者と就職担当者と協議していく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>海外研修告知プリント</p> <p>インターンシップ書類</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-23-1 の続き	<input type="checkbox"/> 学校行事の運営などに学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界など、また、学生の就職先に行事の案内をしているか		<p>学校行事の運営には必ず学生を参画させ、専門分野外から得られることを経験させている。</p> <p>卒業生には TOHO 会ホームページ、Colorful を送付し案内している。</p> <p>保護者への案内は、保護者会の開催。書面での案内、公式ブログ「カレッジダイアリー」を通じて案内をした。</p> <p>関連業界には、行事の案内はしていないが間接部門であるキャリアサポートセンターより TOHO GUIDE を送付し学校案内をしている。</p>	<p>昨今、保護者の学校行事への観覧希望が多くみられる時代となっていることも考慮し、今後は学校案内だけではなく、多方面にて情報提供をすることが重要かつ課題となる。</p>	<p>保護者に対しての情報提供は重要視しており、その提供する情報内容や手段について検討していく。</p>	<p>TOHO 会ホームページ Colorful (TOHO 会会報誌) 保護者会資料 カレッジダイアリー (公式ブログ) TOHO GUIDE (企業向けパンフレット)</p>

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学外実習、インターンシップ、海外研修、学校行事など、積極的に取り入れているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止が相次いだ。今後は教育的視点と学生からのニーズを十分に検討し、多くの学生が参加できるような環境作りに努めていく。</p> <p>インターンシップの目的の多様化にも可能な限り対応している。</p>	<p>本校の企業研修は採用を前提にしたものが多い。</p> <p>あるいは映画業界特有のフリーランス形態を体験させる目的で、制作作品に対してのインターンシップ (現場経験と人脈形成のため) を実施している。</p> <p>学生の専門スキル向上のためにもインターンシップは、より活用例を増やしていく必要があるが、受入れる現場の環境整備が必要である。</p>

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	3	<p>学園内に災害対策委員会を設置し災害時におけるマニュアルを作成している。消防計画に基づき、消火器、消火栓、スプリンクラー、火災報知機、AEDなどが備えられている。避難経路図、自衛消防隊の組織図、備蓄品も備えている。備蓄品の入れ替えは順次対応している。</p> <p>建物は耐震化されている。管理業者に定期的に点検を依頼し、報告を受けており、改善が必要な場合は順次対応している。</p> <p>施設、設備などは転倒が予想される什器などについては防止措置を講じている。</p> <p>防災訓練を定期的実施しており、記録を保存し所轄消防署へ報告もしている。</p> <p>教職員間では東京消防庁の「防災館」で実施している研修にも参加している。</p>	<p>スタジオの電源、発電機、機材などからの発火に対する対処方法の周知状況に十分とは言えない部分がある。</p> <p>学生への周知方法に問題はないか確認が必要である。</p>	<p>電気系のショートや地震などの二次災害として起こり得る機材関係のトラブルに関して、学生には授業等を通じて教職員が安全管理指導を行う。</p> <p>教職員はもちろんのこと、学生にも安全性を最優先に考えた意識や行動、使用方法を継続して指導していく。</p> <p>学生への周知に関しては、災害対策委員会を中心に、その手段、内容を毎年見直していく。</p>	<p>消防計画 学校法人東放学園震災対策カード</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故などに関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品などの危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	3	<p>学校安全計画は策定していない。</p> <p>防犯に関しては警備員や防犯カメラなどを配備し、不審者侵入防止をしている。</p> <p>災害対策マニュアルを作成しており、事故発生時に教職員全員が連携し、対処できるような意識を備えている。学生にはマニュアルをコンパクトにした「災害対策カード」を配布し、授業中以外でも対応ができる体制を整えている。</p> <p>危険物の管理は定期的に担当教職員が対応している。ガソリンなどは極力最小限に留め、管理を行っている。</p> <p>学外実習の実施に際しては未然に事故を防ぐべく、事前に計画・現地下見、安全確認をしてから実施するようにしている。</p>	<p>災害対策マニュアルは、自然災害全般に対応するには不十分なところがある。</p> <p>担当者が十分に把握しているが、特殊機器などについても緊急時に備え教職員間で対処の仕方などは共有できるようにしなければならぬことが課題である。</p>	<p>学園内の災害対策委員会を中心として、事故・事件対応マニュアルを見直し、教職員が理解した上で行動に努めていく。</p> <p>特殊な機器などの発火に対する知識と、既に設置されている化学消火器の使用方法などを周知徹底する。</p>	<p>災害対策マニュアル 事故・事件対応マニュアル 学校法人東放学園震災対策カード</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設に必要と思われる防災設備（消火器、消火栓、スプリンクラー、火災報知機、AEDなど）が備えられている。避難経路図、自衛消防隊の組織図、備蓄品なども備えている。実習時は各担当教職員が事故防止を踏まえて授業を行っている。</p> <p>緊急時に備え、教職員間で各対処法を共有しておくことが重要である。</p>	<p>在校生には災害対策として、マニュアルをコンパクト化した「災害対策カード」を配布して備えている。</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【学生募集活動について】 本校はエンターテインメント業界で活躍できる人材を育成する教育機関として、入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員などに対し、学校・学科の内容紹介だけでなく、学生生活やエンターテインメント業界の動向、卒業生の活躍など、将来をイメージできる情報の提供を行っている。また、体験入学や相談会などの実施により、実際に授業を体験し、直接相談することができる機会を増やしている。今後もニーズに合わせた募集活動を検討していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として説明会、相談会、個別相談、面接などをオンライン形式でも実施。対面式に加え、オンライン形式を導入することで、ハイブリッドかつ効果的な募集活動を進めている。</p> <p>【入学選考について】 入学選考基準、方法は、規程などにに基づき適切に運用し、見直しもを行っている。また、入学希望者の学修履歴や経験が発揮できるように複数の方法を設定し、公平な選考を実施している。</p> <p>【学納金について】 学納金は、教育内容と社会情勢を考慮し妥当な水準を維持している。諸経費についても募集要項で明記している。</p>	<p>【学生募集活動について】 入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員など、それぞれのニーズに合ったわかりやすい資料作成に努める。また紙媒体からインターネット媒体などへの移行を進めるとともに、新たなツールやイベントの検討も進める。</p> <p>今後はこれまで培ったオンラインのノウハウを活かし、対面主体でオンラインイベントも併用していく。</p> <p>【入学選考について】 入学制度や選考基準は、時代に合うように、毎年度検討する。</p> <p>【学納金について】 学納金は教育内容と社会環境を考慮し、毎年度検討する。</p>	<p>入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員などは、エンターテインメント業界についての理解度が低くなく、就職や労働環境などに関して厳しい印象を持たれる傾向もあるため、エンターテインメント業界の特性や職種の状況を説明している。</p> <p>日本全国および海外複数国からの入学者がおり、広報・募集活動は国内のみならずアジア圏でも行っている。また、台湾と韓国には事務所を置いている。</p> <p>東放学園ホームページ、SNS などでは、随時最新情報を提供している。</p> <p>教育成果としては、デビューやコンテスト入賞の実績があげられる。また、卒業後も継続的にデビュー支援をしている。</p> <p>入学時・2年進級時・卒業時にアンケート調査を行い、本校の教育成果に対する入学希望者の認識を確認し、より正確な情報の提供を行えるよう努力している。</p> <p>本校はエンターテインメント業界の未来を築く人材育成を行う専門学校であり、職種により、その求められる人材像は多岐に渡っている。</p> <p>出願前に、相談、見学の機会などがなかった出願者の場合には、入学選考担当者から連絡を入れ、書類では把握できない点も聞き取り、入学選考に反映させている。</p> <p>入学金、授業料などの学納金以外に必要な経費などに関しても、募集要項に掲載している。</p>

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等 接続する教育機関 に対する情報提供 に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	3	<p>高等学校や日本語学校などの校内ガイダンスへの参加や教職員への訪問を実施しており、教育活動などの情報提供を行っている。</p> <p>入学希望者向けの学校案内書以外に保護者向け資料や教員向け資料なども作成し、対象者に合わせた情報提供を行っている。</p> <p>体験入学と同時に保護者説明会も開催している。</p>	<p>エンターテインメント業界の仕組みや卒業後の進路、特に卒業後のデビューをめざすクリエイターについて、高等学校などの教員や保護者の理解度は高くない。</p>	<p>現在使用しているツールを見直すとともに、新たなツールやイベントの企画を進める。</p> <p>保護者向け資料などはエンターテインメント業界の動向や変化などに対応した内容とする。</p>	<p>保護者のみなさまへ (保護者向けパンフレット)</p> <p>高校教諭のみなさまへ (高等学校教諭向けパンフレット)</p>
7-25-2 学生募集を 適切かつ効果的に 行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか	3	<p>4月入学に合わせて適切な時期に願書の受付を開始している。</p> <p>募集要項には、入試方法や日程を明確に記載し、専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っている。</p>	<p>高校生を中心に社会人、大学生、留学生と多岐にわたる入学希望者、それぞれに対応した効果的かつ効率的な募集方法を考える必要がある。</p>	<p>授業の様子を動画で紹介するなど、入学希望者のニーズに合ったわかりやすい資料作成に努めるとともに、学校情報を希望者に届ける効果的な媒体についても研究を進めていく。</p>	<p>募集要項 募集要項 (外国人留学生) 募集要項 (VFX 専攻科) TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書) 保護者のみなさまへ (保護者向けパンフレット) 進路決定者一覧 外国人留学生就職内定者一覧 東放学園ホームページ 東放学園 Twitter 東放学園 Facebook 東放学園 LINE 東放学園 Instagram 東放学園 YouTube 東放学園 TikTok</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか		<p>来校相談のほか、LINEや電話、オンラインでの相談にも対応している。遠方在住の入学希望者には独自説明会を開催するなど、スタッフを各地に派遣し、対応している。</p> <p>具体的なカリキュラムや成果である卒業後の進路などは学校案内書や東放学園ホームページ、SNS などを利用し紹介している。また学生生活やエンターテインメント業界の動向、卒業生の活躍を紹介するなど、将来をイメージできる情報の提供を行っている。</p> <p>個人情報の取扱いについては、プライバシーポリシーに基づき、情報管理を徹底している。</p>			東放学園プライバシーポリシー

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>体験入学や学校説明会、保護者説明会、校舎見学、全国各地で開催する独自の説明会、オンラインでの説明会、相談会を実施。更にエンターテインメントの仕事を体験できるセミナーや業界で活躍している卒業生や在校生から話を聞くことができる機会を設け、学校・学科・業界への理解を深めてもらっている。また、指定寮無料宿泊体験を実施し、遠方からも参加しやすくしている。</p> <p>入学希望者の状況に応じて3つの入学方法を設定し、募集要項にも明記している。A0 入学エントリー面接や一般入学の面接を東京および全国各地で実施。また、インターネット出願やオンラインでの面接も実施している。</p> <p>海外からの留学生についても2つの入試方法を設定し、募集要項（外国人留学生）にも明記している。なお、入学試験は東京以外の国内外の都市や場合によりオンラインでも実施している。</p>			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員などに対し、学校・学科の内容紹介だけでなく、学生生活やエンターテインメント業界の動向、卒業生の活躍など、将来をイメージできる情報の提供を行っている。また、体験入学や相談会などの実施により、実際に授業を体験し、直接相談することができる機会を増やしている。今後もニーズに合わせた募集活動を検討していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として説明会、相談会、個別相談、面接などをオンライン形式で実施。対面式に加え、オンライン形式を導入することで、ハイブリットかつ効果的な募集活動を進めている。</p>	<p>入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員などは、エンターテインメント業界についての理解度が低くなく、就職や労働環境などに関して厳しい印象を持たれる傾向もあるため、エンターテインメント業界の特性や職種の状況を説明している。</p> <p>日本全国および海外複数国からの入学者がおり、広報・募集活動は国内のみならずアジア圏でも行っている。また、台湾と韓国には事務所を置いている。</p> <p>東放学園ホームページ、SNS などでは、随時最新情報を提供している。</p> <p>入学時・2年進級時・卒業時にアンケート調査を行い、本校の教育成果に対する入学希望者の認識を確認し、より正確な情報の提供を行えるよう努力している。</p>

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	<p>入学選考基準、方法は、「東放学園入学試験制度規程」「東放学園 A0 入試制度規程」で定めており、その規程などに基づき適切に運用し、見直しも行っている。</p> <p>入学選考担当者は「東放学園入学試験制度規程」を十分に把握し、選考にあっている。</p> <p>入学希望者の学修履歴や経験が発揮できるように複数の方法を設定し、公平な選考を実施している。</p>	特になし。	特になし。	東放学園入学試験制度規程 東放学園 A0 入試制度規程 募集要項 募集要項 (外国人留学生) 募集要項 (映画 VFX 専攻科)
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	3	<p>学科ごとに入学者の傾向、入試結果、入学手続状況を把握し、募集活動の報告書を作成している。</p> <p>入学者の傾向は、学科ごとに見直しを行い、カリキュラムや授業方法などに活用している。</p> <p>出願者数・入学者数の予測値を算出し、理事会などで検討している。財務などの計画数値との整合性を図っている。</p>	カリキュラムや授業方法の見直しは行っているが、引き続き検討する必要がある。	今後も継続的に学科ごとにカリキュラム検討会議を開催し、カリキュラム内容や授業方法の見直しを行う。	学科戦略表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学選考基準、方法は、規程などにに基づき適切に運用し、見直しも行っている。また、入学希望者の学修履歴や経験が発揮できるように複数の方法を設定し、公平な選考を実施している。</p>	<p>本校はエンターテインメント業界の未来を築く人材育成を行う専門学校であり、職種により、その求められる人材像は多岐に渡っている。 出願前に、相談、見学の機会などがなかった出願者の場合には、入学選考担当者から連絡を入れ、書類では把握できない点も聞き取り、入学選考に反映させている。</p>

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	<p>学納金は、教育内容に見合った金額を算定しており、その変更については理事会において検討、承認を得ている。また社会や経済の動向を確認し、学納金の見直しを行っている。</p> <p>学納金の水準を把握している。</p> <p>学納金等徴収する金額は、募集要項にもその内訳を明記している。</p>	特になし。	特になし。	募集要項 募集要項 (外国人留学生) 募集要項 (映画 VFX 専攻科)
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	<p>3月31日までに入学辞退を申し出た者には授業料などの返還に応じる旨を募集要項に明記し対応している。</p>	特になし。	特になし。	募集要項 募集要項 (外国人留学生) 募集要項 (映画 VFX 専攻科) 入学手続書類

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学納金は、教育内容と社会情勢を考慮し妥当な水準を維持している。諸経費についても募集要項で明記している。今後も社会情勢や経済状況に対応する必要があると思われる。</p>	<p>入学金、授業料などの学納金以外に必要な経費などに関しても、募集要項に掲載している。</p>

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【財務基盤】 入学者を確保するための計画・戦略に力を入れ、財務基盤の安定に努める。収入と支出のバランスの維持を継続していく。</p> <p>【財務数値分析】 決算書類の数値から、対前年度との比較を中心に分析を行い、必要に応じ、過去3年間の数値についても分析している。教育研究経費比率、人件費比率共に数値は適正である。</p> <p>【予算・収支計画】 5ヵ年事業計画と、単年度事業計画に基づき、予算・収支計画を策定している。予算執行は、予算管理担当者が確認している。</p> <p>【会計監査の実施】 法令に基づき、監査法人監査及び監事監査を実施している。</p> <p>【財務情報公開】 東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収支差額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 事業活動収支計算書の当年度収支差額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	4	<p>出願者数・入学者数の把握はしている。定員充足率の推移は、単年度レベルでの把握としている。</p> <p>新入生数・在校生数における収入額に見合った支出額を策定し(設備投資額含)、収支バランスをとるよう心掛けている。</p> <p>貸借対照表の翌年度繰越収支差額はマイナスである。解消に向けての計画・検討は、運営会議・部門長レベルの会議体などで行われている。</p> <p>事業活動収支計算書の当年度収支差額はマイナスであるが、原因は把握している。運営会議、理事会などでも決算書内容の分析について法人本部長及び法人副本部長より補足説明をし了解を得ている。</p> <p>機器備品検討会議を行い、各部門間で精査し決められた予算内で計画的に設備投資を実施している。</p> <p>負債のうち、借入金はないため、財務基盤は安定している。</p>	特になし。	特になし。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（事業活動収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	4	<p>収支状況による財務分析は、決算書類の数値に基づき法人本部で行っている。過去3年間に渡り、分析している。但し、財産目録による定型的対比は分析しづらいため、記載内容全体で比較している。</p> <p>負債のうち、借入金・長期未払金はない。</p> <p>キャッシュフローの状況は、資金繰表を担当者が毎月作成し、把握している。教育研究費比率、人件費比率共に適正值である。</p> <p>コスト管理は費用対効果に留意して、複数の担当で予算作成と執行管理を行っている。</p> <p>収支の状況は、自己評価を行い、全体的にバランスがとれている。</p> <p>現在は、客観的に見ても収支状況の改善が必要な状況ではないため、財務改善計画は策定していない。</p>	特になし。	特になし。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 資金繰表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学者数、在校生数の学費収入に見合った支出予算を引き続き維持することが重要である。教育研究費比率、人件費比率の数値は適切である。	特になし。

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4	5ヵ年事業計画書・単年度事業計画書に基づき、予算・収支計画を作成している。決定にあたっては理事会及び運営会議時に事前に提示し、確認を行っている。	特になし。	特になし。	5ヵ年事業計画書・単年度事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	3	<p>予算執行計画は、各部門で作成している予算申請書の内容に基づき執行する。</p> <p>予算と決算に大きな乖離は生じていない。また、予算超過になる前に事前に理事会で協議の上、予備費を活用するなどの対応をしている。</p> <p>経理規程を必要に応じ整備している。予算については経理規程内に明記している。</p> <p>予算の執行は、必ず所属長の承認を受けた後に行うことを徹底している。</p>	予算執行の際、各部門の経理処理を正確・適切に行う必要がある。	各部門の経理担当者と緊密に連携し、必要に応じて勉強会を実施する。	予算執行の取扱いについて(資料) 経理規程 経理規程施行細則

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
予算執行・管理は、予算管理担当者が定期的に確認している。また、適正な勘定科目で執行されるよう、各経理担当者と緊密に連携し、必要に応じて勉強会を実施するなど、知識向上にも注力していくことが必要である。	特になし。

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	<p>各法令などに沿って、監査法人と学園監事による監査を実施している。また、監査時の指摘事項などは記録し、理事長・法人本部長へ報告している。</p> <p>尚、監事と監査法人名が記載された監査報告書は、決算書などに添付し理事会・評議員会で承認を受けている。</p>	特になし。	特になし。	決算書(監査報告書)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法令に基づき、監査法人監査・監事監査が行われている。 指摘事項については記録し、理事長・法人本部長及び法人副本部長へ報告している。	特になし。

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3	<p>財務公開規程(財務書類等閲覧規程)を整備し、2016年4月1日より施行した。</p> <p>閲覧公開用としての財務帳票・事業報告書は作成済である。閲覧が迅速かつ安定的に運用できるよう目指している。</p> <p>東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。</p>	閲覧希望者への対応等が円滑にいかない場合も予想される。	財務書類等閲覧規程を適切に運用することを、定期的に学務管理部長会議内で確認し、対応手順などを共有していく。	財務書類等閲覧規程 財産目録 資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 事業報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。	特になし。

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【関係法令、設置基準の遵守】 社会の信頼を得るべく学校運営の適正化を図るために、法令や専修学校設置基準を遵守する体制を整え、学則変更などの諸届や各種規程の整備・改定を適宜行っている。 今後、より踏み込んだ整備を進め、時代の流れに即応した適正な学校運営を進めていく。</p> <p>【個人情報保護】 個人情報の保護に関するセキュリティ基本方針などの規程を定め、教職員・学生などに対して様々な啓発活動を実施している。また、セキュリティの脅威から情報資産を守るため様々な対策を講じている。</p> <p>【学校評価】 自己評価、学校関係者評価ともに規程に則り、毎年度実施し、評価結果を報告書にまとめ東放学園ホームページに一般公開をしている。また、東放学園コミュニティサイト（教職員用）にも公開している。</p> <p>【教育情報の公開】 学校の概要や教育内容などの情報は、TOHOGAKUEN SCHOOL GUIDE、東放学園ホームページ、映画の学校カレッジ・ダイアリー（公式ブログ）、SNSなどで、学生、保護者、関連業界に公開している。</p>	<p>【関係法令、設置基準の遵守】 各種規程類の運用管理は、規程等管理規程に則り行われている。 規程の整備については、未整備の規程や改定の必要な規程がないかどうかを洗い出す作業を継続的に進めていく。</p> <p>【個人情報保護】 最新のセキュリティ関連情報を収集し、規程が適切に運用されているかどうか定期的な監査を担えるよう、個人情報の保護に関する専門知識とITスキルを有する教職員で構成された委員会を運営している。</p>	<p>【関係法令、設置基準の遵守】 法令遵守に関する必要事項の検討や対処について、学校運営に関わるものは、主に学校と法人本部学校事務総括部が連携して行い、経営に関わるものは、法人本部法人総務部が主導で行っている。</p> <p>【個人情報保護】 個人情報の保護に関する規程は学校事務総括部が管理している。</p> <p>【学校評価】 学校法人東放学園 学校評価委員会 〔統括〕 部門長 1名 〔委員〕 教職員 9名 東放学園映画専門学校 学校関係者評価委員会 〔委員〕 学校運営有識者 1名、業界関係企業 1名、卒業生 1名、高校教諭 1名 計 4名 〔事務局〕 校長、教務教育部長、学務管理部長、職員 1名 計 4名</p> <p>【教育情報の公開】 東放学園ホームページ 映画の学校カレッジ・ダイアリー（公式ブログ）</p>

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	<p>関係法令に基づく適正な学校運営を行うため、学校と法人本部が連携して、適宜学則変更の必要な届出を行っている。学内規程の整備も随時行っている。</p> <p>ハラスメント防止について、その方針や対策を教職員向けホームページにて教職員全体へ周知している。学生に対しては、学生ガイド(シラバスなど)に取り組みを掲載しており、相談窓口も設けている。また、学生から様々な意見を受け付ける体制を整えている。</p> <p>法令遵守に関して、教職員には職員会議で周知徹底し、学生に対しては学生ガイドへの掲載やオリエンテーションにて法令遵守に基づく学校の規則やルールとして説明している。</p>	<p>法人本部において学内規程の整備を進めており、制度改正などに伴う規程の見直しは、速やかに行わなければならない。</p> <p>エンターテインメント業界・高校の教員・学生・在校生・保護者・地域からの信頼を確保するためにもスクールコンプライアンスの確立が必要である。</p> <p>クラウド利用などが進む中、状況にあった情報セキュリティを整備する。</p>	<p>規程の整備について、法人本部と関係する部門・部署や会議体が連携して、新たな規程の制定、既存規程の改定などの必要性を洗い出す作業を継続的に進めていく。</p> <p>ハラスメント防止に関する方針や対策を明確にしたマニュアルなどを整備した上で教職員へ周知徹底する。</p>	<p>学則等届出資料</p> <p>規程等管理規程</p> <p>各種学内規程</p> <p>ハラスメント関連の掲示物</p> <p>学生ガイド(シラバスなど)</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学校運営の適正化を図るために、関係法令や専修学校設置基準等を遵守する体制を整えている。それに基づき、時代の流れに即応した適正な運営が実施されるように学則変更などの諸届や各種規程の整備・改定などを適宜行っている。</p> <p>今後、制度改正に速やかに対応し、教職員や関係者へ周知徹底を図り適正な学校運営を進めていく。</p>	<p>法令遵守に関する必要事項の検討や対処について、学校運営に関わるものは、主に学校と法人本部学校事務総括部が連携して行い、経営に関わるものは、法人本部法人総務部が主導で行っている。</p>

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>個人情報の取扱いに関する規程を定め、学園の業務に携わる者はその遵守に努めている。また、個人情報が漏洩などの事故に遭遇した場合の善後策を準備してある。</p> <p>電子データは専任の管理者が規程に則り、保護対策、多重バックアップを実施している。紙媒体の管理は施錠保管、倉庫保管、耐火金庫保管で区分けして管理している。</p> <p>東放学園ホームページから個人情報を取得する際は、SSL でデータを暗号化して保護されたデータベースに蓄積している。</p> <p>教職員向け勉強会や校内ポスターの掲示、文書などで周知を行うことで個人情報保護の意識啓発を実施している。</p>	<p>関連する規程類を定期的に棚卸し、現時点での要不要を含めて、内容を見直す。</p>	<p>最新のセキュリティ関連情報を収集し、規程が適切に運用されているかどうか定期的な監査を行う。その結果、規程が現場の状況に適していなければ、最新の法律や他の組織の現状を踏まえて不備や不足を見直す。</p> <p>個人情報に関する様々な事柄を職員会議や研修会などを通して教職員に周知・徹底する。</p> <p>2021年度、情報セキュリティポリシーを見直し、私物端末とクラウドサービス利用に関するセキュリティ対策を規定した。</p>	<p>個人情報セキュリティ基本方針、対策基準</p> <p>事故・事件対応マニュアル</p> <p>情報セキュリティポリシー</p> <p>ソーシャルメディアガイドライン</p> <p>プライバシーポリシー サイトポリシー</p> <p>教職員研修資料</p> <p>学内啓発ポスター</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報の保護に関するセキュリティ基本方針等の規程を定め、教職員・学生等に対して様々な啓発活動を実施している。セキュリティの脅威から情報資産を守るため様々な対策を講じている。</p>	<p>IT スキルの高い教職員で組織された情報管理・システム委員会が規程の運用状況を定期的に監査し、改善が必要な場合は速やかに対策を講じている。</p>

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	3	自己評価は学則に規定し、学内規程も制定済みである。 毎年度、学園全体で委員会を設置し、各校・各部門において組織的な実施体制で指摘事項に関して取組んでいる。	改善点や見直し案の具体策が教職員に対し周知徹底できていない部分がある。	自己評価結果から改善点や見直し案などを具体的にまとめる方法を構築し、その内容を全教職員に正確に伝えた上で組織的に改善に取り組んでいく。	学則 学校法人東放学園 自己点検・評価に関する規程 自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	毎年度、報告書を作成して職員室内に配置している。東放学園コミュニティウェブサイトにも掲載して教職員や関係者に公表している。 対外的には東放学園ホームページで公開している。	特になし。	引き続き法人本部と連携し、公表に関しては検討を重ねていく。	学校法人東放学園 自己点検・評価に関する規程 自己評価報告書 東放学園コミュニティウェブサイト（教職員専用） 東放学園ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	4	学内規程も整備しており、学内に学校評価委員会を設置し、担当者を置き、学校評価委員の立案するスケジュールに合わせ、11月12日に学校関係者評価委員会をオンラインで開催した。 学内規程に基づき、その委員選出にあたっている。 その指摘に基づき改善努力を行っている。	改善点や見直し案の具体策を教職員が協議、検討するが、役職者主流になっているため、もう少し現場の教職員の意見なども取り入れられるような工夫が必要である。	指摘事項において、全教職員で共有し、改善策を検討する組織や機会を設けることを検討する。	東放学園コミュニティウェブサイト（教職員専用） 学校法人東放学園 学校関係者評価に関する規程 東放学園ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	学校関係者評価の実績を報告書に取りまとめ、東放学園ホームページ上で公表している。	現状の公開情報にて問題がないかを検討する必要がある。	引き続き法人本部と連携し、公表に関しては検討を重ねていく。	学校関係者評価報告書 東放学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自己評価は学則や関係規程に則り、毎年度実施しているが、改善点などの具体策を示し早期解決に向けた取組み体制が必要である。</p> <p>学校関係者評価は、学内の評価とは違う対外的な評価も含まれるため、教員の目線とは違った参考意見を伺う事が出来る機会となる。今後の学校の発展にも大きな意味を持つものであるため、継続して開催することが必要である。</p>	<p>学校関係者評価委員会 ※今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインによる開催となった。</p> <p>〔委員〕 学校運営有識者 1 名、業界関係企業 1 名、卒業生 1 名、高校教諭 1 名 / 計 4 名 〔事務局〕 校長、教務教育部長、学務管理部長、職員（各 1 名） / 計 4 名</p> <p>学園内に学校評価委員会を配置し、自己点検評価、学校関係者評価を取り纏めている。 学校法人東放学園 学校評価委員会 〔統括〕 部門長 1 名 〔委員〕 教職員 9 名で構成している。</p>

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的にやっているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員など教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界など広く社会に公開するための方法で公開しているか	3	<p>文部科学省：高等教育の修学支援制度、職業実践専門課程、キャリア形成促進プログラムに基づき、学校の概要などは東放学園ホームページで公開している。 ※更新は毎年7月末に行っている。</p> <p>本校公式ブログ「カレッジダイアリー」では、学校行事や実習授業内容、学生生活状況を紹介している。</p> <p>各科においても作品集サイトを公開している。映画制作科「シアター104」、プロモーション映像科「Clip Clap」、アニメーション・CG科「アニコレ」、小説創作科「ノベル部」。</p>	公式ブログに関して、今年度は新型コロナウイルスの影響により、定期的な更新ができなかったため、非常時においても更新できる環境が必要である。	情報公開ガイドラインに沿った公開を行う。 公式ブログの担当者間でミーティングを行い、定期的な更新が成せるよう検討する。	東放学園ホームページ カレッジダイアリー(公式ブログ) TOHO GUIDE (企業向けパンフレット) TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE 「シアター104」 「Clip Clap」 「アニコレ」 「ノベル部」

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
映画制作科、プロモーション映像科、アニメーション・CG科、小説創作科の学生が制作した作品が、東放学園ホームページや各科の管理する作品集サイトで教育成果として公開されている。	学校の公式ブログを教職員の担当で、学生生活や授業内容なども公開している。 【URL】 https://blog.tohogakuen.ac.jp/movie/ 映画制作科「シアター104」、プロモーション映像科「ClipClap」、アニメーション・CG科「アニコレ」、小説創作科「ノベル部」

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【外部団体との連携】 関係省庁、関係自治体、関連団体、教育機関、関連学会、関連企業とできる限り連携をし、交流を図っている。東京都、新宿区、東京都専修学校各種学校協会、東京都私学財団、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会、日本映画テレビ技術協会、日本映画テレビ照明協会、日本映画・テレビ美術監督協会、日本映画テレビスクリプター協会、日本映像学会、日本動画協会、アニメ人材育成パートナーズフォーラム (AJPF)、特定非営利活動 (NPO) 法人 日本アカデミー協会、日本映画撮影監督協会、日本ポストプロダクション協会 (JPPA)、映像産業振興機構 (VIPO)、日本キャリア教育学会などに所属し、各種会合に出席している。</p> <p>【生涯学習】 2年制・1年制専門課程を中心に展開しており、生涯学習事業や付帯教育については十分とは言えない。</p> <p>【外部への施設開放】 施設利用の希望があった場合、学校運営に支障がない限り開放している。</p> <p>【国際交流】 留学生受け入れが中心となっているが、近年学科教員による研修を兼ねた出張授業や情報交換も積極的に行っている。今年度は日本語学校からの協力依頼もあり、オンラインにて日本のアニメーションに関する説明、体験授業などを実施した。 海外からの問い合わせなどには、主に InternationalCenter が対応し、校舎も可能な限り協力している。</p> <p>【特別授業・告知】 特別授業としてボランティア講座・実習をしている。</p>	<p>今年度の実績から社会情勢を見つつ生涯教育や国際交流なども含め連携を検討していく。 社会貢献・地域貢献について、本校の成せることを検討する。</p>	<p>【施設・設備提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月6日(日) 東京都高等学校軽音楽連盟予選大会 ・9月2日(金) ANIMAX MUSIX 予選 <p>・劇場公開予定映画作品制作において編集室貸出提供</p> <p>※ 例年は、関連企業の新人研修やイベント開催などとして施設貸出を可能な限り行っているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から施設貸出を自粛した。</p> <p>【ボランティア講座】 教職員が新宿区社会福祉協議会と連携し、講座を開講している。</p> <p>【キャリア教育、業界理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校へ教職員を派遣し、出張授業を実施した。 ・小学生から高校生までを対象とした、北海道雄武町図書館主催の「イラスト講座」を、オンラインにて実施した。 <p>【年金講座・租税教室】 1年生を対象として新宿年金事務所による「年金講座」を開講している。2年生を対象としては新宿税理士会の協力のもと開催している「租税教室」が公に評価され、新宿税務署より「租税教育推進校」として認定を受けている。</p>

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程などを整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備などを地域・関連業界など・卒業生などに開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校などが行うキャリア教育などの授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設などを活用し高等学校の職業教育などの授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者などを対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	3	<p>関係省庁、関係自治体、関連団体、教育機関、関連学会、関連企業とできる限り連携をし、交流を図っている。 現在は生涯学習事業や付帯教育は実施していない。</p> <p>高等学校の軽音楽連盟は、毎年地下スタジオ(StudioDee)を会場として提供し協力している。卒業生や関連企業、近隣などから施設利用の希望があった場合、可能な限り協力する体制ではあるが、今年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から十分には対応出来なかった。</p> <p>高等学校などで職業理解を含めた出張授業や部活動支援を実施、中学生の修学旅行などの際にも同様に対応している。</p> <p>資源回収業者などと連携し、リサイクルに取り組んでいる。</p> <p>地域の受講者という広い対象での講座は開講していないが、関連企業の新入社員研修などを実施している。</p> <p>重要な社会問題について学生には、学生ガイドやポスター掲示などで啓発している。教職員には、朝礼、職員会議を通じ、情報を伝達し、必要に応じ各協会、私学財団の主催する研修会に参加している。</p>	<p>加入している関連団体は多いが、これらと連携して社会に強くアピール出来るものが必要である。</p> <p>社会貢献・地域貢献面においては、積極的な仕掛けなどは出来ていないことが課題である。目に見える形での社会貢献や地域貢献を検討し、実施することが学校の好感度アップに繋がるものと考えられる。</p> <p>関連業界との連携においても、今以上に関係性を強化していく必要がある。</p>	<p>関連する放送、映像、アニメーション、出版などエンターテインメント業界関連団体の主催する会合などに積極的に参加し情報交換しつつ、様々な研究開発や実証の機会や、セミナーなどで会場を提供する機会を増やしていくことも検討する。</p> <p>近隣住民の方々にもなにか提供できることはないか検討していく。</p> <p>ゴミの分別やリサイクルがどのように貢献出来るかを数値化し、意識改革を進める。</p>	<p>東京都 新宿区各資料 東京都専門学校各種学校協会資料 新宿専門学校各種学校協会資料 東京都私学財団ホームページ 学生ガイド(シラバスなど)</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<p>海外からの視察などは可能な限り受け入れている。</p> <p>間接部門である International Center と連携し、留学生の受け入れ体制を整えている。</p> <p>留学生受入れのため、International Center が中心となり、オンライン等による説明会や相談会を実施し積極的に国内外に情報発信を行っている。</p> <p>昨年度から International Center が主催し、日本語講座（ビジネス向け・就活用）を開講し、日本語レベルの向上と日本人交流に関する支援を強化している。</p> <p>11月26日に台湾の TOHO 会（同窓会組織）による同窓会を開催した。</p> <p>同様に、12月17日に韓国にて忘年会も開催し、情報交換なども行えた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から、留学生の休学を認めている為、その復学後の対応やケアなどが課題である。</p>	<p>校内での留学生担当者の数を増やし、情報共有することで対応する。</p>	<p>募集要項(留学生)</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係省庁、関係自治体、関連団体、教育機関、関連学会、関連企業とできる限り連携をし、交流を図っている。</p> <p>生涯学習事業や付帯教育は積極的には行っていない。関連業界・卒業生を中心に外部への施設開放を行っているが、一般に広く開放していない。</p> <p>留学生が比較的多く在籍している学科を中心に、積極的に海外との交流を深めてはいるが、学校全体、学園全体でも今まで以上にその対策、対応が必要となっている。</p> <p>国際交流は主に留学生の受け入れや海外からの視察程度に留まっている。アジアの動向については関心を持って情報収集を行っている。</p>	<p>高等学校へはキャリア教育、職業理解、部活動支援の意味合いで出張授業などを行い協力している。</p> <p>施設提供としては、11月6日（日）東京都高等学校軽音楽連盟等。</p> <p>※例年は、可能な限り卒業生や関連企業・団体に貸出等をしているが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から自粛した。</p> <p>1年生を対象として新宿年金事務所による「年金講座」を開講している。2年生を対象としては新宿税理士会の協力のもと開催している「租税教室」が公に評価され、新宿税務署より「租税教育推進校」として認定を受けている。</p>

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	<p>一般的なボランティア活動促進には至っていない。</p> <p>新宿区社会福祉協議会と提携し、「ボランティア講座（短期集中講座）」として実施し、意識向上を図っている。</p> <p>外部から依頼のあるボランティア活動に関しては、その内容を検討し、学生へ告知し招集している。</p> <p>ボランティア活動の結果に関しては、職員会議などを通じて情報を共有している。</p>	ボランティアの積極的な奨励や斡旋ができていないことが課題である。	<p>ボランティア活動募集を提示し、学生が自発的に提案することの出来る体制づくりを整備していく。</p> <p>各学科での作品制作による期間拘束が長い為、時期などを把握し、可能な限り学生に紹介していく。</p>	「ボランティア講座」掲示

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>一般的なボランティア活動の促進は行っていない。新宿区社会福祉協議会と連携し、特別授業として「ボランティア講座」を開催している。具体的なボランティアを紹介するなどして地域住民との交流にもなる内容となっている。</p> <p>学業との兼ね合いで、日々の学習成果を生かしたボランティア活動が少ない状況である。</p> <p>今後は学生が自発的にボランティア活動を提案することの出来る体制づくりを整備していく。</p>	<p>近年の取り組み例としては新宿区社会福祉協議会と提携し、ボランティア講座を実施している。車椅子体験・ブラインドウォーク・高齢者体験、街のクリーン化として近隣のゴミ拾いなどが挙げられる。</p>

4 2022 年度重点目標達成についての自己評価

2022 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校デザインの見直し ・ 中途退学防止策の強化 ・ 就職率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学科で教育課程を見直し、時代に合わせて授業内容の変更などを行った。 ・ 各部長を中心に校内施設の使用方法やレイアウトの見直しを行い、一部教室の用途変更を行った。 ・ 学校行事について、系列4校合同で行っていた運動会は、コロナ禍もあり実施できなかった。本校単独で行うスポーツ大会や学園祭は、例年とは形を変えて実施することができた。 ・ 前年度の中途退学者リストを作成し、原因を把握すると共に対策を検討、実施したが、中途退学者の数は増加してしまった。 ・ 退学者が減少した学科もあったが、退学者が増えた学科が多く、全体的には状況が悪化してしまった。 ・ 前年度の進路状況を振り返り、就職セミナーや学科内の就職系授業で対策を講じた。 ・ 前期中、就職活動への意識ならびに緊張感を高めることを狙いとした、オンラインによる模擬面接を実施した。 ・ 年度内に3回の進路希望調査を行い、学生の志向を把握すると共に、就職におけるミスマッチ防止に努めた。 ・ 学生との個人面談と共に、Google チャットを利用した就職活動状況の把握と積極的な求人への斡旋を行った。 ・ キャリアサポートセンターと連携し、新規求人企業の開拓に努めた。 ・ 上記施策に努め、コロナ禍の中、僅かではあるが昨年度の数値を上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいカリキュラムに対応していくためには、教員のスキルもアップデートが必要である。将来を見据えた人材育成と要員計画を行っていく。 ・ 併せて機材の更改なども行い、時代のニーズに合った授業を行える環境を整備していく。 ・ 学校行事について、競技種目変更やオンラインでの実施などで対応したが、行事への参加人数が減少してしまった。多くの学生が楽しんで参加できるよう一層の工夫が必要である。 ・ 事業計画の最重点目標に置き、入学者が全員卒業できるよう、全校で取り組む体制を構築する。 ・ 学科毎に原因を分析し、個別の対応を行うことが必要である。特に退学者の多い学科には、学務管理部よりサポート要員を付ける等、具体的な対策が求められる。 ・ 企業が求める人材像の把握に努め、必要な教育環境の整備を行うと共に、企業のニーズや時代に合わせた就職分野の拡大を視野に、教育内容の更新を行う。 ・ 上記に併せ、学生の目線を拡大する施策も検討していく必要がある。